

地域社会学特論I		【単位数	2単位
授業コード	M3110	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	二階堂 裕子		
時間割備考			
授業形態（主）	1 講義		
授業形態（副）	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野（大学院）	地域社会学		
本授業の概要			
この授業は、講義のほか、受講生による報告や討論を交えながら進められる。講義では、グローバル化をめぐるさまざまな動向を取り上げ、それらを捉えるための手がかりについて解説を加えるとともに、社会の多文化化が生み出す諸問題について考察する。また、地域社会の多文化化に関する論考を取り上げ、輪読を行う。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	地域社会学領域の重要な概念、および研究の視点と方法について説明することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	日本の地域社会が直面している諸課題を、多面的かつ相対的に論じることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み姿勢（報告と討論への参加）：40%	1/2	
2	期末レポート：60%	1/2	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. オリエンテーション（地域社会学という学問）			
事前学修	シラバスの内容をよく読み、関心のあるキーワードについてインターネット上などの情報を調べておく。	約1時間	
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。	約1時間	
2. グローバル化とは何か：国境を超えた現象をとらえる			
事前学修	関連する文献の読解や既存のデータなどの分析を行い、これらから得た知見を自分で整理する。	約1時間	
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。	約1時間	
3. 輪読（序論 日本の地方部の多国籍化・多文化化の現状と課題）			
事前学修	口頭発表の担当者は、テキストの内容をレジュメにまとめるとともに、授業中に取り上げたい論点を提示する。それ以外の受講生もテキストを熟読し、自分の疑問点などを整理しておく。	約1時間	
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。	約1時間	
4. 国境を超える人の移動			
事前学修	関連する文献の読解や既存のデータなどの分析を行い、これらから得た知見を自分で整理する。	約1時間	
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。	約1時間	
5. 輪読（第1章 地域社会の多国籍化・多文化化対応におけるローカルガバナンス構造）			
事前学修	口頭発表の担当者は、テキストの内容をレジュメにまとめるとともに、授業中に取り上げたい論点を提示する。それ以外の受講生もテキストを熟読し、自分の疑問点などを整理しておく。	約1時間	
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。	約1時間	

6. 国際移動とジェンダー		
事前学修	関連する文献の読解や既存のデータなどの分析を行い、これらから得た知見を自分で整理する。	約1時間
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。	約1時間
7. 輪読（第2章 外国人住民に対する日本語教育）		
事前学修	口頭発表の担当者は、テキストの内容をレジュメにまとめるとともに、授業中に取り上げたい論点を提示する。それ以外の受講生もテキストを熟読し、自分の疑問点などを整理しておく。	約1時間
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。	約1時間
8. 国際移動をめぐる課題		
事前学修	関連する文献の読解や既存のデータなどの分析を行い、これらから得た知見を自分で整理する。	約1時間
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。	約1時間
9. 輪読（第3章 安芸高田市の外国系市民をめぐる施策展開）		
事前学修	口頭発表の担当者は、テキストの内容をレジュメにまとめるとともに、授業中に取り上げたい論点を提示する。それ以外の受講生もテキストを熟読し、自分の疑問点などを整理しておく。	約1時間
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。	約1時間
10. 「国民」とは誰か		
事前学修	関連する文献の読解や既存のデータなどの分析を行い、これらから得た知見を自分で整理する。	約1時間
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。	約1時間
11. 輪読（第4章 京都府における国際化の現状と日本語学習支援）		
事前学修	口頭発表の担当者は、テキストの内容をレジュメにまとめるとともに、授業中に取り上げたい論点を提示する。それ以外の受講生もテキストを熟読し、自分の疑問点などを整理しておく。	約1時間
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。	約1時間
12. 日本社会と移民		
事前学修	関連する文献の読解や既存のデータなどの分析を行い、これらから得た知見を自分で整理する。	約1時間
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。	約1時間
13. 輪読（第5章 城陽市国際交流協会による多文化共生事業の取り組み）		
事前学修	口頭発表の担当者は、テキストの内容をレジュメにまとめるとともに、授業中に取り上げたい論点を提示する。それ以外の受講生もテキストを熟読し、自分の疑問点などを整理しておく。	約1時間
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。	約1時間
14. 日本の労働市場と外国人労働者		
事前学修	関連する文献の読解や既存のデータなどの分析を行い、これらから得た知見を自分で整理する。	約1時間
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。	約1時間
15. 輪読（第6章 農業経営を支える外国人技能実習生）		
事前学修	口頭発表の担当者は、テキストの内容をレジュメにまとめるとともに、授業中に取り上げたい論点を提示する。それ以外の受講生もテキストを熟読し、自分の疑問点などを整理しておく。	約1時間
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。	約1時間

<p>試験等</p> <p>第15回の授業終了後、期日までにメールにてレポートを提出する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p> <p>成績に疑義のある人は、個別に解説するのでメールにて連絡すること。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p> <p>書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外）</p> <p>書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p><必携書></p> <p>徳田剛・二階堂裕子・魁生由美子編著『地方発 多文化共生のしくみづくり』晃洋書房、2023 年 参考文献や資料などは授業中に適宜紹介する。</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>質問は、授業終了後のほか、随時電子メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先</p> <p>nikaidoy@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p>

地域社会学特論II		【単位数】	2単位
授業コード	M3115	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	二階堂 裕子		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	地域社会学		
本授業の概要			
この授業は、講義のほか、受講生による報告や討論を交えながら進められる。講義では、地域社会における異質な他者を理解するための方法論を取り上げ、その実践例と成果について解説を加える。また、方法論のなかでも特にライフストーリーの手法に注目し、輪読を通して、異文化理解のうえでそれがどのような強みを持っているのかを考察する。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	質的調査の考え方や方法について説明することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力
2	日本の地域社会が直面している諸課題を、多面的かつ相対的に論じることができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み姿勢(報告と討論への参加): 40%		1/2
2	期末レポート: 60%		1/2
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. オリエンテーション(地域社会の理解と質的調査)			
事前学修	シラバスの内容をよく読み、関心のあるキーワードについてインターネット上などの情報を調べておく。		約1時間
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。		約1時間
2. 質的調査の考え方			
事前学修	関連する文献の読解や既存のデータなどの分析を行い、これらから得た知見を自分で整理する。		約1時間
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。		約1時間
3. 輪読(第1章 『口述の生活史』はいかにして成立したか)			
事前学修	口頭発表の担当者は、テキストの内容をレジュメにまとめるとともに、授業中に取り上げたい論点を提示する。それ以外の受講生もテキストを熟読し、自分の疑問点などを整理しておく。		約1時間
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。		約1時間
4. フィールドワーク			
事前学修	関連する文献の読解や既存のデータなどの分析を行い、これらから得た知見を自分で整理する。		約1時間
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。		約1時間
5. 輪読(第2章 『ポーランド農民』における手紙と自伝の利用)			
事前学修	口頭発表の担当者は、テキストの内容をレジュメにまとめるとともに、授業中に取り上げたい論点を提示する。それ以外の受講生もテキストを熟読し、自分の疑問点などを整理しておく。		約1時間
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。		約1時間

6. 参与観察		
事前学修	関連する文献の読解や既存のデータなどの分析を行い、これらから得た知見を自分で整理する。	約1時間
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。	約1時間
7. 輪読（第3章 語りとリアリティ研究の可能性）		
事前学修	口頭発表の担当者は、テキストの内容をレジュメにまとめるとともに、授業中に取り上げたい論点を提示する。それ以外の受講生もテキストを熟読し、自分の疑問点などを整理しておく。	約1時間
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。	約1時間
8. インタビュー		
事前学修	関連する文献の読解や既存のデータなどの分析を行い、これらから得た知見を自分で整理する。	約1時間
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。	約1時間
9. 輪読（第4章 フォークロア研究とライフストーリー）		
事前学修	口頭発表の担当者は、テキストの内容をレジュメにまとめるとともに、授業中に取り上げたい論点を提示する。それ以外の受講生もテキストを熟読し、自分の疑問点などを整理しておく。	約1時間
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。	約1時間
10. ワークショップ		
事前学修	関連する文献の読解や既存のデータなどの分析を行い、これらから得た知見を自分で整理する。	約1時間
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。	約1時間
11. 輪読（第5章 歴史は逆なでに書かれる）		
事前学修	口頭発表の担当者は、テキストの内容をレジュメにまとめるとともに、授業中に取り上げたい論点を提示する。それ以外の受講生もテキストを熟読し、自分の疑問点などを整理しておく。	約1時間
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。	約1時間
12. ライフストーリー分析		
事前学修	関連する文献の読解や既存のデータなどの分析を行い、これらから得た知見を自分で整理する。	約1時間
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。	約1時間
13. 輪読（第6章 インタビューにおける理解の達成）		
事前学修	口頭発表の担当者は、テキストの内容をレジュメにまとめるとともに、授業中に取り上げたい論点を提示する。それ以外の受講生もテキストを熟読し、自分の疑問点などを整理しておく。	約1時間
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。	約1時間
14. ドキュメント分析		
事前学修	関連する文献の読解や既存のデータなどの分析を行い、これらから得た知見を自分で整理する。	約1時間
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。	約1時間
15. 輪読（第7章 ジェンダー・セクシュアリティとオーラル・ヒストリー）		
事前学修	口頭発表の担当者は、テキストの内容をレジュメにまとめるとともに、授業中に取り上げたい論点を提示する。それ以外の受講生もテキストを熟読し、自分の疑問点などを整理しておく。	約1時間
事後学修	授業で扱った内容について、配布した資料やレジュメを熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解を文章化する。	約1時間

<p>試験等</p> <p>第15回の授業終了後、期日までにメールにてレポートを提出する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p> <p>成績に疑義のある人は、個別に解説するのでメールにて連絡すること。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p> <p>書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外）</p> <p>書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p><必携書></p> <p>山田富秋・好井裕明編『語りが拓く地平-ライフストーリーの新展開』せりか書房、2013年 参考文献や資料などは授業中に適宜紹介する。</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>質問は、授業終了後のほか、随時電子メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先</p> <p>nikaidoy@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p>

家族社会学特論I		【単位数】	2単位
授業コード	M3120	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	山下 美紀		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会学		
本授業の概要			
家族社会学が取り組んできた領域やテーマを広くとりあげ、家族社会学の理論を説明する 家族社会学の分析視角について解説するとともに、今日的課題について考察する 並行して古典的文献をいくつか取り上げ輪読形式で報告、討論を行い、理解を深める			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	家族研究の分析視角を理解し、使えるようになる	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	家族に関する古典的文献を読むことにより、家族研究の潮流を理解し、説明することができる	知識・技能/思考・判断・表現力	
3	今日的な課題への取り組みを明らかにしてその成果を問うことができる	思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業および討論への取り組み 30%	1/2/3	
2	中間報告 20%	1/2/3	
3	課題・レポート 25%	1/2/3	
4	最終報告 25%	1/2/3	
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第 1 回 講義概要 オリエンテーション			
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までには必ず目を通し、理解を深めてもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
第 2 回 家族社会学の分析視角			
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までには必ず目を通し、理解を深めてもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
第 3 回 輪読①ラドクリフ・ブラウン『未開社会における構造と機能』			
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までには必ず目を通し、理解を深めてもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
第 4 回 歴史社会的アプローチ			
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までには必ず目を通し、理解を深めてもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
第 5 回 人口学的アプローチ			
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までには必ず目を通し、理解を深めてもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	

第 6 回 ジェンダー研究的アプローチ		
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 7 回 エスノメソドロジック的アプローチ		
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 8 回 輪読② マリノウスキー『性・家族・社会』		
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 9 回 構造機能論的アプローチ		
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 10 回 家族ストレス論的アプローチ		
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 11 回 相互作用論的アプローチ		
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 12 回 交換論的アプローチ		
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 13 回 輪読③ マードック『社会構造』		
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 14 回 ライフコース論的アプローチ		
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 15 回 ネットワーク論的アプローチ		
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）

試験等
口述試験を行う
試験のフィードバックの方法
複数回の課題レポートについて、コメントを付して返却する 口述試験について、必要な助言を与える
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
参考図書：野々山久也・清水浩昭編 2001、『家族社会学の分析視角』、ミネルヴァ書房.
オフィスアワー
授業中に指示する 随時、メールで質問を受け付ける
連絡先
miki@m.ndsu.ac.jp
留意事項

家族社会学特論II			単位数	2単位
授業コード	M3125	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	山下 美紀			
時間割備考				
授業形態(主)	1 講義			
授業形態(副)	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	社会学			
本授業の概要				
この授業では、家族社会学の研究成果を解説したうえで、現代の家族についての理解を深める とくに日本の家族を対象に、家族社会学の幅の広さについて具体的事例を取り上げながら説明する 家族にかかわる基本的文献および今日的課題に関する文献を随時紹介し、家族社会学の研究の可能性に言及する				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	家族社会学研究の基本を理解する		知識・技能/思考・判断・表現力	
2	現代の家族現象を社会環境との関連において説明できるようになる		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	家族研究に関するさらなる理論的展開の可能性を論じることができるようになる		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業および討論への取り組み 30%		1/2/3	
2	課題・レポート 30%		1/2/3	
3	最終レポート 40%		1/2/3	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧			事前・事後学修内容と時間	
第 1 回 講義概要 家族社会学研究の基本				
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までには必ず目を通し、理解を深めてもらいたい(各回4時間程度)		(各回4時間程度)	
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい(各回4時間程度)		(各回4時間程度)	
第 2 回 日本の家族変動				
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までには必ず目を通し、理解を深めてもらいたい(各回4時間程度)		(各回4時間程度)	
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい(各回4時間程度)		(各回4時間程度)	
第 3 回 恋愛と結婚				
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までには必ず目を通し、理解を深めてもらいたい(各回4時間程度)		(各回4時間程度)	
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい(各回4時間程度)		(各回4時間程度)	
第 4 回 子育てにみる家族主義の限界				
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までには必ず目を通し、理解を深めてもらいたい(各回4時間程度)		(各回4時間程度)	
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい(各回4時間程度)		(各回4時間程度)	
第 5 回 討論① 第 2 回～第 4 回をふまえて				
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までには必ず目を通し、理解を深めてもらいたい(各回4時間程度)		(各回4時間程度)	
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい(各回4時間程度)		(各回4時間程度)	

第 6 回 介護の「再家族化」		
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回 4 時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 7 回 家族階層と教育機会		
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回 4 時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 8 回 生活の共同性と家族主義		
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回 4 時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 9 回 討論② 第 6 回～第 8 回をふまえて		
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回 4 時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 10 回 「お金」と「愛情」の間		
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回 4 時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 11 回 セクシュアル・マイノリティの家族		
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回 4 時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 12 回 成人子と親との関係		
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回 4 時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 13 回 討論③ 第 10 回～第 12 回をふまえて		
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回 4 時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 14 回 家族と政治・法律		
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回 4 時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 15 回 討論④・まとめ		
事前学修	講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回 4 時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）

試験等
口述試験
試験のフィードバックの方法
複数回の課題レポートについて、コメントを付して返却する 口述試験について、必要な助言を与える
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
参考図書：永田夏来・松木洋人編 2017、『入門家族社会学』新泉社.
オフィスアワー
授業中に指示する 随時、メールで質問を受け付ける
連絡先
miki@m.ndsu.ac.jp
留意事項

社会集団・組織論特論I		単位数	2単位
授業コード	M3130	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	濱西 栄司		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会学		
本授業の概要			
本授業の主な目的は、社会学の基礎理論の一つである「社会集団・組織論」の理解を通して、現代社会を捉えるための専門的な視座や技法を修得することにある。代表的な理論として、前半では Olson の集合行為論、後半では Zald、McCarthy、McAdam らによる資源動員論をとりあげ、文献の講読を行う。			
アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	理論の特徴や背景、可能性、限界について正確に理解する。	知識・技能	
2	さまざまな社会組織（特にその因果的メカニズム）を分析するための専門的な技法、及び思考・判断力を修得する。	思考・判断・表現力	
3	自らが関心をもつ組織事例に、理論・技法をあてはめて考えることができる	主体性	
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	レジュメ作成と発表、討議 (50%)	1/2	
2	期末レポート (50%)	2/3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第 1 回 序論—目的合理的行為			
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度	
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえ、復習すること	3時間程度	
第 2 回 集団・組織形成の前提			
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度	
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえ、復習すること	3時間程度	
第 3 回 公共選択アプローチ			
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度	
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえ、復習すること	3時間程度	
第 4 回 集合財とフリーライダー問題			
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度	
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえ、復習すること	3時間程度	
第 5 回 選択的誘因と集団規模、政治的企業家			
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度	
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえ、復習すること	3時間程度	

第 6 回 利益集団論へのインパクト		
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえ、復習すること	3時間程度
第 7 回 オルソン批判と現代政治		
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえ、復習すること	3時間程度
第 8 回 事例・実験による検証		
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえ、復習すること	3時間程度
第 9 回 集合行為問題と民主政治 (1) 経済発展		
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえ、復習すること	3時間程度
第 10 回 集合行為問題と民主政治 (2) 国家論		
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえ、復習すること	3時間程度
第 11 回 組織の維持・存続		
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえ、復習すること	3時間程度
第 12 回 離脱・発言・忠誠		
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえ、復習すること	3時間程度
第 13 回 組織間関係論 (1)		
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえ、復習すること	3時間程度
第 14 回 組織間関係論 (2) 社会学的組織連関論		
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえ、復習すること	3時間程度
第 15 回 公共選択アプローチの意義と限界		
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえ、復習すること	3時間程度

試験等
期末レポート
試験のフィードバックの方法
Google Classroomを用いて行う
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜、プリントなどを配布する。
オフィスアワー
メールによる質問、または金曜の12時30分～13時（臨時会議等で留守にする場合があるので事前にEメールで予約すること）。 オンライン（Zoom、Meet）での相談も可能。
連絡先
hamanishi@m.ndsu.ac.jp
留意事項

社会集団・組織論特論II		単位数	2単位
授業コード	M3135	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	濱西 栄司		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会学		
本授業の概要			
<p>本授業の主な目的は、社会学の基礎理論の一つである「社会集団・組織論」の理解を通して、現代社会を捉えるための専門的な視座や技法を修得することにある。授業では、社会集団・組織論(社会学)における代表的な理論として動員論(資源動員論を核としてフレーミング論や政治的機会構造論などを組み合わせた理論体系)をとりあげ、その他の研究パラダイムと比較検討しつつ、方法論的特徴や背景、可能性、限界等について説明し、その修正策やオルタナティブについて議論する。比較検討するしていく。適宜、関連する歴史社会学/社会史的研究(Durkheim、Weber、Friedman、Touraine、Tilly 他)も紹介する。</p>			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	理論の特徴や背景、可能性、限界について正確に理解する	知識・技能	
2	さまざまな社会組織(特にその現代的意義と当事者にとっての意味)を分析するための専門的な技法、及び思考・判断力を修得する	思考・判断・表現力	
3	自らが関心をもつ組織事例に、理論・技法をあてはめて考えることができる	主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	レジュメ作成と発表、討議(50%)	1/2	
2	期末レポート(50%)	2/3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回 資源動員論の位置(1) 集合行動論との関係			
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度	
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて、復習すること	3時間程度	
第2回 資源動員論の位置(2) 資源動員論の意義			
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度	
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて、復習すること	3時間程度	
第3回 動員論の理論的展開(1) 合理的理論			
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度	
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて、復習すること	3時間程度	
第4回 動員論の理論的展開(2) 崩壊から連帯へ			
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度	
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて、復習すること	3時間程度	
第5回 動員論の理論的展開(3) 功利主義的理論			
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度	
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて、復習すること	3時間程度	

第 6 回 動員論の実証 (1) ジェンダー		
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて、復習すること	3時間程度
第 7 回 動員論の実証 (2) エスニシティ		
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて、復習すること	3時間程度
第 8 回 動員論の実証 (3) 環境問題		
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて、復習すること	3時間程度
第 9 回 動員論の課題 (1) 合理性問題		
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて、復習すること	3時間程度
第 10 回 動員論の課題 (2) ミクロとマクロ		
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて、復習すること	3時間程度
第 11 回 動員論の課題 (3) 実証可能性		
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて、復習すること	3時間程度
第 12 回 動員論の課題 (4) 労働論		
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて、復習すること	3時間程度
第 13 回 動員論の課題 (5) NSM 論		
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて、復習すること	3時間程度
第 14 回 国際的研究の現状 (1) 理論の分裂		
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて、復習すること	3時間程度
第 15 回 国際的研究の将来 (2) 組織から集団へ		
事前学修	課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて、復習すること	3時間程度

試験等
期末レポート
試験のフィードバックの方法
Google Classroomを用いて行う
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜、プリントなどを配布する。
オフィスアワー
メールによる質問、または金曜の12時30分～13時（臨時会議等で留守にする場合があるので事前にEメールで予約すること）。 オンライン（Zoom、Meet）での相談も可能。
連絡先
hamanishi@m.ndsu.ac.jp
留意事項

社会心理学特論I		単位数	2単位
授業コード	M3140	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	土井 隆義		
時間割備考			
授業形態(主)			
授業形態(副)			
担当形態			
研究分野(大学院)			
本授業の概要			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)	
1			
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1			
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
事前学修			
事後学修			
事前学修			
事後学修			
事前学修			
事後学修			
事前学修			
事後学修			
事前学修			
事後学修			

試験等
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
オフィスアワー
連絡先
留意事項

宗教社会学特論I		【単位数】	2単位
授業コード	M3150	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	福田 雄		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会学		
本授業の概要			
宗教社会学の古典的文献を学習し、社会文化に関する洞察を得るとともに、現代宗教にかんする実証的研究と対比させながら、その現代的意義を確認する。マックス・ヴェーバー、エミール・デュルケームを中心にとりあげる。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	宗教社会学の古典的研究における問題関心(近代化と世俗化)を理解し、その限界と可能性を吟味することができる。	知識・技能	
2	上記の課題を踏まえたうえで、現代社会に応用することができる。	思考・判断・表現力	
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	レポート(60%)および授業への取り組み姿勢(40%) 前者は、古典文献の読解と要約を課す。後者は現代社会への展開可能性についての議論の内容で評価する。	1	
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. イントロダクション			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分	
2. 「緒言」			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分	
3. 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 I 問題」			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分	
4. 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 II 禁欲主義的プロテスタンティズムの天職倫理」			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分	
5. 「プロテスタント諸信団と資本主義の精神」			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分	

6. Parsons, T. 1966 "Introduction" in Max Weber, The Sociology of Religion. Beacon Press		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
7. ヴェーバー「世界宗教の経済倫理 序論」『宗教社会学論選』		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
8. 「苦難の神義論と災禍をめぐる記念行事」『宗教と社会』24: 65-80		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
9. 「序論」		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
10. 「第一部 前提問題」		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
11. 「第二部 基本的信念」		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
12. 「第三部 主要な儀礼的態度」		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
13. ウォーナー, W. L. 「アメリカの神聖な儀式の象徴的分析」『アメリカ人の生活構造』		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
14. 岡崎宏樹「社会学と哲学」『日仏社会学年報』26: 69-90		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
15. 振り返りと総括		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分

試験等
期末レポート
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
『マックス・ヴェーバー 宗教社会学論集 第1巻上』（北海道大学出版会、2019年）2. ～ 5. デュルケム『宗教生活の基本形態 上・下』（ちくま学芸文庫、2014年）9. ～12
オフィスアワー 水曜2限
連絡先 u_fukuda@m.ndsu.ac.jp
留意事項

宗教社会学特論II		【単位数】	2単位
授業コード	M3155	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	福田 雄		
時間割備考			
授業形態（主）	1 講義		
授業形態（副）			
担当形態	単独		
研究分野（大学院）	社会学		
本授業の概要			
宗教社会学の古典的文献の背景にある方法論を学習し、当時の文脈における問題関心に照らし合わせながら批判的検討を行う。さらに現代社会を分析するにあたっての展開の可能性を検討する。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	宗教社会学の古典的研究における問題関心とその方法論を理解し、その限界と可能性を吟味することができる。	知識・技能	
2	上記の課題を踏まえたうえで、現代社会に応用することができる。	思考・判断・表現力	
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	レポート（60%）および授業への取り組み姿勢（40%） 前者は、古典文献の読解と要約を課す。後者は現代社会への展開可能性についての議論の内容を評価する。	1/2	
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. イントロダクション			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分	
2. 友枝敏雄「社会学の方法」『社会学の力』			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分	
3. 菊谷和宏「トクヴィルとデュルケーム」『社会学評論』49(2): 172-187			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分	
4. 山崎亮「『宗教生活の基本形態』の宗教学的読解」『デュルケーム宗教学思想の研究』			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分	
5. 『社会学的方法の基準』			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分	

6. 盛山和夫「社会的事実とは何か」『社会学的方法的立場』		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
7. 厚東洋輔「デュルケムと道徳の「実証科学」」『〈社会的なもの〉の歴史』		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
8. 『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
9. 『仕事としての学問 仕事としての政治』		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
10. マイヤー「歴史の理論と方法」『歴史は科学か』		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
11. ヴェーバー「文化科学の論理学の領域における批判的研究」『歴史は科学か』		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
12. 佐藤俊樹「社会科学とは何か」『社会科学と因果分析』		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
13. 盛山和夫「理念型という方法」『社会学的方法的立場』		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
14. 厚東洋輔「ヴェーバーと合理主義の社会学」『〈社会的なもの〉の歴史』		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
15. 振り返りと総括		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約60分

試験等
期末レポート
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<p>デュルケーム『社会学的方法の基準』（講談社学術文庫、2018年）5. ヴェーバー『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』（岩波文庫、1998年）8. ヴェーバー『仕事としての学問 仕事としての政治』（講談社学術文庫、2018年）9. 盛山和夫『社会学的方法的立場』（東京大学出版会、2013年）6.13. 厚東洋輔『〈社会的なもの〉の歴史』（東京大学出版会、2020年）7.14</p>
オフィスアワー 水曜2限
連絡先 u_fukuda@m.ndsu.ac.jp
留意事項

社会学演習I		【単位数】	2単位
授業コード	M3210	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	山下 美紀		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会学		
本授業の概要			
本授業では、受講者が選んだ研究課題に取り組むために必要な研究方法と調査の手法・過程について具体的に学ぶ。社会学に関連するテーマを扱い、研究課題を選び、関連する先行研究を理解し、研究課題に沿って調査研究の方法と考え方を読解する。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	到達目標1：社会学研究の課題設定を適切に行うことができる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	到達目標2：先行研究を的確に理解し、批判的に読解することができる。	思考・判断・表現力/主体性	
3	到達目標3：必要な方法論を理解し、調査研究を実践することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	発表および討論への取り組み 30%	1/2/3	
2	中間報告 20%	1/2/3	
3	課題・レポート 25%	1/2/3	
4	最終報告 25%	1/2/3	
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回 社会学における学術研究について			
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
第2回 研究課題(仮)の設定			
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
第3回 先行研究：文献の収集			
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
第4回 先行研究：批判的検討			
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
第5回 先行研究：今後の課題			
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	

第 6 回 研究課題の設定		
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 7 回 研究の方法		
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 8 回 調査・分析の方法		
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 9 回 調査の実施に向けて：計画を立てる		
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 10 回 調査の実施について		
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 11 回 調査データの整理		
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 12 回 調査データの分析		
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 13 回 分析結果の考察		
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 14 回 分析結果の考察：先行研究との関係		
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
第 15 回 研究論文の構成、執筆について 定期試験 なし		
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）	（各回4時間程度）

試験等 複数回の課題レポートの提出を求める
試験のフィードバックの方法 提出されたレポートについて、毎回コメントを付して返却する
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
各クラスの授業で指示する。
オフィスアワー 授業中に指示する 随時メールで質問を受け付ける
連絡先 miki@m.ndsu.ac.jp
留意事項

社会学演習II		【単位数	2単位
授業コード	M3215	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	山下 美紀		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会学		
本授業の概要			
本授業では、各自の研究課題に沿った調査・分析方法について理解し、実際に調査から得られたデータ・資料について分析と考察を行う。そのうえで研究成果のオリジナリティを客観的に判断しつつ、研究論文の構成、執筆を行っていく。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	到達目標1: 設定した課題について、適切な調査を行うことができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	到達目標2: 調査データを適切な方法で分析し、結果をまとめることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	到達目標3: 研究成果のオリジナリティを客観的に判断し、発表・論文作成できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	議論への参加 20%	1/2/3	
2	発表 30%	1/2/3	
3	研究論文 50%	1/2/3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回 社会学における学術研究について			
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
第2回 研究課題の設定			
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
第3回 研究方法・調査論について			
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
第4回 研究論文の構成とルール			
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
第5回 調査の実施計画			
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい(各回4時間程度)	(各回4時間程度)	

第 6 回 調査の実施について		
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい (各回4時間程度)	(各回4時間程度)
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい (各回4時間程度)	(各回4時間程度)
第 7 回 調査結果の報告：全体状況		
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい (各回4時間程度)	(各回4時間程度)
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい (各回4時間程度)	(各回4時間程度)
第 8 回 調査結果の報告：フィールド等		
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい (各回4時間程度)	(各回4時間程度)
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい (各回4時間程度)	(各回4時間程度)
第 9 回 調査結果の報告とコメント		
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい (各回4時間程度)	(各回4時間程度)
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい (各回4時間程度)	(各回4時間程度)
第 10 回 調査成果の整理		
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい (各回4時間程度)	(各回4時間程度)
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい (各回4時間程度)	(各回4時間程度)
第 11 回 調査成果の整理と考察		
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい (各回4時間程度)	(各回4時間程度)
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい (各回4時間程度)	(各回4時間程度)
第 12 回 研究論文の執筆：概要		
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい (各回4時間程度)	(各回4時間程度)
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい (各回4時間程度)	(各回4時間程度)
第 13 回 研究論文の執筆：前半		
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい (各回4時間程度)	(各回4時間程度)
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい (各回4時間程度)	(各回4時間程度)
第 14 回 研究論文の執筆：後半		
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい (各回4時間程度)	(各回4時間程度)
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい (各回4時間程度)	(各回4時間程度)
第 15 回 まとめ 定期試験 なし		
事前学修	毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にするべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい (各回4時間程度)	(各回4時間程度)
事後学修	演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい (各回4時間程度)	(各回4時間程度)

試験等 複数回の課題レポートの提出を求める
試験のフィードバックの方法 提出されたレポートについて、毎回コメントを付して返却する
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
各クラスの授業で指示する。
オフィスアワー 授業中に指示する 随時メールで質問を受け付ける
連絡先 miki@m.ndsu.ac.jp
留意事項

社会学演習I		【単位数】	2単位
授業コード	M3217	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	二階堂 裕子		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会学		
本授業の概要			
本授業では、受講者が選んだ研究課題に取り組むために必要な研究方法と調査の手法・過程について具体的に学ぶ。社会学に関連するテーマを扱い、研究課題を選び、関連する先行研究を理解し、研究課題に沿って調査研究の方法と考え方を読解する。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	社会学研究の課題設定を適切に行うことができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	先行研究を的確に理解し、批判的に読解することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
3	必要な方法論を理解し、調査研究を実践することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	議論への参加：20%	1/2	
2	発表：30%	1/2	
3	研究論文：50%	1/2/3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回：社会学における学術研究について			
事前学修	シラパスの内容をよく読み、関心のあるキーワードについてインターネット上などの情報を調べておく。	約1時間	
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間	
第2回：研究課題(仮)の設定			
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間	
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間	
第3回：先行研究：文献の収集			
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間	
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間	
第4回：先行研究：批判的検討			
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間	
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間	
第5回：先行研究：今後の課題			
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間	
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間	

第6回：研究課題の設定		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間
第7回：研究の方法		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間
第8回：調査・分析の方法		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間
第9回：調査の実施に向けて：計画を立てる		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間
第10回：調査の実施について		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間
第11回：調査データの整理		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間
第12回：調査データの分析		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間
第13回：分析結果の考察		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間
第14回：分析結果の考察：先行研究との関係		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間
第15回：研究論文の構成、執筆について		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間

<p>試験等</p> <p>第15回の授業終了後、期日までにメールにてレポートを提出する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p> <p>成績に疑義のある人は、個別に解説するのでメールにて連絡すること。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p> <p>書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外）</p> <p>書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>各クラスの授業で指示する。</p> <p>その他、適宜資料を提示するほか、参考書なども紹介する。</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>質問は、授業終了後のほか、随時電子メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先</p> <p>nikaidoy@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p>

社会学演習II		単位数	2単位
授業コード	M3218	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	二階堂 裕子		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会学		
本授業の概要			
本授業では、各自の研究課題に沿った調査・分析方法について理解し、実際に調査から得られたデータ・資料について分析と考察を行う。そのうえで、研究成果のオリジナリティを客観的に判断しつつ、研究論文の構成、執筆を行っていく。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	設定した課題について、適切な調査を行うことができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	調査データを適切な方法で分析し、結果をまとめることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	研究成果のオリジナリティを客観的に判断し、発表・論文作成ができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	議論への参加：20%	1/2	
2	発表：30%	1/2	
3	研究論文：50%	1/2/3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回：社会学における学術研究について			
事前学修	シラパスの内容をよく読み、関心のあるキーワードについてインターネット上などの情報を調べておく。	約1時間	
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間	
第2回：研究課題の設定			
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間	
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間	
第3回：研究方法・調査論について			
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間	
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間	
第4回：研究論文の構成とルール			
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間	
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間	
第5回：調査の実施計画			
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間	
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間	

第6回：調査の実施について		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間
第7回：調査結果の報告：全体状況		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間
第8回：調査結果の報告：フィールド等		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間
第9回：調査結果の報告とコメント		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間
第10回：調査成果の整理		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間
第11回：調査成果の整理と考察		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間
第12回：研究論文の執筆：概要		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間
第13回：研究論文の執筆：前半		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間
第14回：研究論文の執筆：後半		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間
第15回：社会学における学術研究のまとめ		
事前学修	教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	約1時間
事後学修	教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	約1時間

<p>試験等</p> <p>第15回の授業終了後、期日までにメールにてレポートを提出する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p> <p>成績に疑義のある人は、個別に解説するのでメールにて連絡すること。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p> <p>書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外）</p> <p>書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>各クラスの授業で指示する。</p> <p>その他、適宜資料を提示するほか、参考書なども紹介する。</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>質問は、授業終了後のほか、随時電子メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先</p> <p>nikaidoy@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p>

社会学演習I		単位数	2単位
授業コード	M3220	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	濱西 栄司		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	3 実験・実習・実技		
担当形態	クラス分け		
研究分野(大学院)	社会学		
本授業の概要			
本授業では、受講生が研究テーマ・研究方針を定め、またそれを実現するために必要な分析手法について学ぶ。それぞれの分野に応じた社会学の研究テーマを選び、関連する先行研究・史資料を収集し、それらを批判的・客観的に分析するなど、自身の研究を深化させるための訓練をおこない、研究発表・論文作成に向けた準備をおこなう。			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	社会学的な研究テーマの設定を適切に行うことができる。	主体性	
2	研究に必要な方法論を理解し、史資料の収集・分析を実践することができる。	知識・技能	
3	先行研究を批判的・客観的に読解することができる。	思考・判断・表現力	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業時の議論への参加(20%)	3	
2	発表(30%)	2/3	
3	研究論文(50%)	1/2/3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回：研究論文とは何か			
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の議論に備える	3時間程度	
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度	
第2回：先行研究：文献の収集			
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の議論に備える	3時間程度	
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度	
第3回：先行研究：批判的に読む			
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の議論に備える	3時間程度	
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度	
第4回：先行研究：不足点と今後の課題			
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の議論に備える	3時間程度	
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度	
第5回：研究テーマの設定			
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の議論に備える	3時間程度	
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度	

第 6回：研究方針の確定		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度
第 7回：調査・分析の方法		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度
第 8回：史資料調査の実施に向けて：計画を立てる		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度
第 9回：史資料調査の実施に向けて：予備調査をおこなう		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度
第10回：史資料調査の実践		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度
第11回：史資料調査のまとめ		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度
第12回：先行研究と自身の研究との比較分析		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度
第13回：自身の研究が解決すべき課題		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度
第14回：研究発表と討論		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度
第15回：研究論文の作成に向けて		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度

試験等
各クラスの授業で指示する。
試験のフィードバックの方法
各クラスの授業で指示する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
各クラスの授業で指示する。受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択し、その他の資料は授業中に配付する。
オフィスアワー
金曜日の昼休み等。Zoom等での相談にも応じる。
連絡先
hamanishi@m.ndsu.ac.jp
留意事項

社会学演習II		単位数	2単位
授業コード	M3225	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	濱西 栄司		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	3 実験・実習・実技		
担当形態	クラス分け		
研究分野(大学院)	社会学		
本授業の概要			
本授業では、受講生が研究テーマ・研究方針を定め、またそれを実現するために必要な分析手法について学ぶ。それぞれの分野に応じた社会学の研究テーマを選び、関連する先行研究・史資料を収集し、それらを批判的・客観的に分析するなど、自身の研究を深化させるための訓練をおこない、研究発表・論文作成に向けた準備をおこなう。			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	社会学的な研究テーマの設定を適切に行うことができる。	主体性	
2	研究に必要な方法論を理解し、史資料の収集・分析を実践することができる。	知識・技能	
3	先行研究を批判的・客観的に読解することができる。	思考・判断・表現力	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業時の議論への参加(20%)	3	
2	発表(30%)	2/3	
3	研究論文(50%)	1/2/3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回：研究論文とは何か			
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の議論に備える。	3時間程度	
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度	
第2回：先行研究：文献の収集			
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の議論に備える。	3時間程度	
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度	
第3回：先行研究：批判的に読む			
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の議論に備える。	3時間程度	
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度	
第4回：先行研究：不足点と今後の課題			
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の議論に備える。	3時間程度	
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度	
第5回：研究テーマの設定			
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の議論に備える。	3時間程度	
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度	

第 6回：研究方針の確定		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度
第 7回：調査・分析の方法		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度
第 8回：史資料調査の実施に向けて：計画を立てる		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度
第 9回：史資料調査の実施に向けて：予備調査をおこなう		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度
第10回：史資料調査の実践		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度
第11回：史資料調査のまとめ		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度
第12回：先行研究と自身の研究との比較分析		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度
第13回：自身の研究が解決すべき課題		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度
第14回：研究発表と討論		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度
第15回：研究論文の作成に向けて		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	3時間程度
事後学修	発表へのコメント・ディスカッションを踏まえて復習する	3時間程度

試験等
各クラスの授業で指示する。
試験のフィードバックの方法
各クラスの授業で指示する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
各クラスの授業で指示する。受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択し、その他の資料は授業中に配付する。
オフィスアワー
金曜日の昼休み等。Zoom等での相談にも応じる。
連絡先
hamanishi@m.ndsu.ac.jp
留意事項

社会学演習I		【単位数】	2単位
授業コード	M3230	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	森 泰三		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	1 講義 / 3 実験・実習・実技		
担当形態	クラス分け		
研究分野(大学院)	社会学		
本授業の概要			
本授業では、受講生が研究テーマ・研究方針を定め、またそれを実現するために必要な分析手法について学ぶ。それぞれの分野に応じた社会学・史学の研究テーマを選び、関連する先行研究・史資料を収集し、それらを批判的・客観的に分析するなど、自身の研究を深化させるための訓練をおこない、研究発表・論文作成に向けた準備をおこなう。			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性)	
1	社会学研究の課題設定を適切に行うことができる。	知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
2	先行研究を的確に理解し、批判的に読解することができる。	知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
3	必要な方法論を理解し、調査研究を実践することができる。	知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	議論への参加 (20%)	1 / 2 / 3	
2	発表 (30%)	1 / 2 / 3	
3	研究論文 (50%)	1 / 2 / 3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回：社会学における学術研究について			
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3時間	
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1時間	
第2回：研究課題(仮)の設定			
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3時間	
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1時間	
第3回：先行研究：文献の収集			
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3時間	
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1時間	
第4回：先行研究：批判的検討			
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3時間	
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1時間	

第5回：先行研究：今後の課題		
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3時間
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1時間
第6回：研究課題の設定		
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3時間
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1時間
第7回：研究の方法		
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3時間
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1時間
第8回：調査・分析の方法		
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3時間
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1時間
第9回：調査の実施に向けて：計画を立てる		
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3時間
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1時間
第10回：調査の実施について		
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3時間
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1時間
第11回：調査データの整理		
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3時間
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1時間
第12回：調査データの分析		
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3時間
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1時間
第13回：分析結果の考察		
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3時間
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1時間
第14回：分析結果の考察：先行研究との関係		
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3時間
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1時間
15回：研究論文の構成、執筆について		
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3時間
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1時間

試験等
各クラスの授業で指示する。
試験のフィードバックの方法
各クラスの授業で指示する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
各クラスの授業で指示する。受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択し、その他の資料は授業中に配付する。
オフィスアワー
木曜日3時限
連絡先
tmori@m.ndsu.ac.jp
留意事項

社会学演習II		【単位数】	2単位
授業コード	M3232	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	森 泰三		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	1 講義 / 3 実験・実習・実技		
担当形態	クラス分け		
研究分野(大学院)	社会学		
本授業の概要			
本授業では、各自の研究課題に沿った調査・分析方法について理解し、実際に調査から得られたデータ・資料について分析と考察を行う。そのうえで、研究成果のオリジナリティを客観的に判断しつつ、研究論文の構成、執筆を行っていく。			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性)	
1	設定した課題について、適切な調査を行うことができる。	知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
2	調査データを適切な方法で分析し、結果をまとめることができる。	知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
3	研究成果のオリジナリティを客観的に判断し、発表・論文作成ができる。	知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	議論への参加 (20%)	1 / 2 / 3	
2	発表 (30%)	1 / 2 / 3	
3	研究論文 (50%)	1 / 2 / 3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回：社会学における学術研究について			
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3 時間	
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1 時間	
第2回：研究課題の設定			
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3 時間	
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1 時間	
第3回：研究方法・調査論について			
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3 時間	
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1 時間	
第4回：研究論文の構成とルール			
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3 時間	
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1 時間	

第5回：調査の実施計画		
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3時間
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1時間
第6回：調査の実施について		
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3時間
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1時間
第7回：調査結果の報告：全体状況		
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3時間
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1時間
8回：調査結果の報告：フィールド等		
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3時間
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1時間
第9回：調査結果の報告とコメント		
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3時間
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1時間
第10回：調査成果の整理		
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3時間
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1時間
第11回：調査成果の整理と考察		
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3時間
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1時間
第12回：研究論文の執筆：概要		
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3時間
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1時間
第13回：研究論文の執筆：前半		
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3時間
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1時間
第14回：研究論文の執筆：後半		
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3時間
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1時間
第15回：まとめ		
事前学修	授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。幅広い関連書籍や研究論文を読み、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	3時間
事後学修	授業の内容を取り込んで、自分の研究の修正をする。	1時間

試験等 各クラスの授業で指示する。
試験のフィードバックの方法 各クラスの授業で指示する。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
各クラスの授業で指示する。受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択し、その他の資料は授業中に配付する。
オフィスアワー 火曜日 4時限
連絡先 tmori@m.ndsu.ac.jp
留意事項

社会学演習I		【単位数】	2単位
授業コード	M3240	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	福田 雄		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	3 実験・実習・実技		
担当形態	クラス分け		
研究分野(大学院)	社会学		
本授業の概要			
本授業では、受講者が研究テーマ・研究方針を定め、またそれを実現するために必要な分析手法について学ぶ。それぞれの分野に応じた社会学の研究テーマを選び、関連する先行研究・史資料を収集し、それらを批判的・客観的に分析するなど、自身の研究を深化させるための訓練をおこない、研究発表・論文作成に向けた準備をおこなう。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	社会学的な研究テーマの設定を適切に行うことができる。	主体性	
2	研究に必要な方法論を理解し、史資料の収集・分析を実践することができる。	知識・技能	
3	先行研究を批判的・客観的に読解することができる。	思考・判断・表現力	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業時の議論への参加(20%)	3	
2	発表(30%)	2/3	
3	研究論文(50%)	1/2/3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回：研究論文とは何か			
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の議論に備える。また日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	90分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	
第2回：先行研究：文献の収集			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	
第3回：先行研究：批判的に読む			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	
第4回：先行研究：不足点と今後の課題			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	
第5回：研究テーマの設定			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	

第6回：研究方針の確定		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
第7回：調査・分析の方法		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
第8回：史資料調査の実施に向けて：計画を立てる		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
第9回：史資料調査の実施に向けて：予備調査をおこなう		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
第10回：史資料調査の実践		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
第11回：史資料調査のまとめ		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
第12回：先行研究と自身の研究との比較分析		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
第13回：自身の研究が解決すべき課題		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
第14回：研究発表と討論		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
第15回：研究論文の作成に向けて		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分

試験等 各クラスの授業で指示する。
試験のフィードバックの方法 各クラスの授業で指示する。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
各クラスの授業で指示する。受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択し、その他の資料は授業中に配布する。
オフィスアワー 水曜2限
連絡先 u_fukuda@m.ndsu.ac.jp
留意事項

社会学演習II		【単位数】	2単位
授業コード	M3242	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	福田 雄		
時間割備考			
授業形態（主）	2 演習		
授業形態（副）	3 実験・実習・実技		
担当形態	クラス分け		
研究分野（大学院）	社会学		
本授業の概要			
本授業では、受講者の研究テーマや研究方針、収集・利用した史資料の内容を他者に的確に説明する訓練をおこなうとともに、研究の全体構成を具体化し、論文執筆と研究発表に必要な能力を高める。			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	実施した史資料収集や調査の結果をまとめ、適切な方法で分析できる。	主体性	
2	分析結果を客観的・批判的に検討することができる。	知識・技能	
3	上記1・2の成果を盛り込み、研究発表・論文執筆がおこなえる。	思考・判断・表現力	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業時の議論への参加（20%）	3	
2	発表（30%）	2/3	
3	研究論文（50%）	1/2/3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第 1回：これまでの振り返りと研究内容の検討・修正			
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の議論に備える。また日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。	90分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	
第 2回：研究テーマ・研究方針・史資料調査の再確認			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	
第 3回：研究論文の執筆：問題の所在と全体構成			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	
第 4回：収集した史資料の分析：史料の性格の確認			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	
第 5回：収集した史資料の分析：史料批判			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	

第 6回：研究テーマを深化させる		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
第 7回：研究論文の執筆：先行研究との差異化		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
第 8回：史資料の分析結果：客観的に再検討する		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
第 9回：史資料の分析結果：どのように論文に用いるか		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
第10回：研究論文の執筆：論理的な議論とは		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
第11回：序論の書き方		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
第12回：結論の書き方		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
第13回：研究論文の全体構成・論証過程の見直し		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
第14回：要旨の書き方		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
第15回：まとめ		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分

試験等
各クラスの授業で指示する。
試験のフィードバックの方法
各クラスの授業で指示する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
各クラスの授業で指示する。受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択し、その他の資料は授業中に配布する。
オフィスアワー
水曜2限
連絡先
u_fukuda@m.ndsu.ac.jp
留意事項

日本社会史特論I		単位数	2単位
授業コード	M3310	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	久野 洋		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会史		
本授業の概要			
本授業では、明治期日本の地域社会の動向に視点を据えて、日本社会の近代化の特徴を考える。その際、岡山地域を具体的なフィールドに設定して考察を進める。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	日本社会の近代化の特徴を説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	歴史学における地域史研究の意義を説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み度(出席・発言・発表)と課題レポート等により、総合的に評価する。	1/2	
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. イン트로ダクション			
事前学修	シラバスの内容を確認する。		30分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。		90分
2. さまざまな明治維新			
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。		90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。		90分
3. 身分制の解体			
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。		90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。		90分
4. 文明開化と民衆宗教			
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。		90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。		90分
5. 徴兵令と血税一揆			
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。		90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。		90分

6. 自由民権運動と岡山地域		
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
7. 地方名望家と殖産興業		
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
8. 地方名望家と地方行政		
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
9. 地方名望家と明治地方自治制		
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
10. 議会制の導入と社会変容		
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
11. 災害と地域社会		
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
12. 日清・日露戦争と岡山地域		
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
13. 地域資料からみえる帝国日本①		
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
14. 地域資料からみえる帝国日本②		
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
15. 総括と展望		
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分

試験等 授業中に指示する。
試験のフィードバックの方法 授業中に指示する。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業中に適宜指示する。
オフィスアワー 授業中に指示する。
連絡先 hisano@m.ndsu.ac.jp
留意事項 一部、演習形式も取り入れる。

日本社会史特論II		単位数	2単位
授業コード	M3315	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	久野 洋		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会史		
本授業の概要			
本授業では、大正・昭和戦前期日本の地域社会の動向に視点を据えて、日本社会の大衆社会化・現代化の特徴を考える。その際、岡山地域を具体的なフィールドに設定して考察を進める。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	日本社会の大衆社会化・現代化の特徴を説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	歴史学における地域史研究の意義を説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み度(出席・発言・発表)と課題レポート等により、総合的に評価する。	1/2	
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. イン트로ダクション			
事前学修	シラバスの内容を確認する。		30分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。		60分
2. 都市化と都市住民			
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。		90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。		90分
3. 都市問題と都市騒擾			
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。		90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。		90分
4. 都市民衆騒擾と岡山地域			
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。		90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。		90分
5. 第一次世界大戦のインパクト			
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。		90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。		90分

6. 米騒動と岡山地域		
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
7. 労働・農民運動と岡山地域		
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
8. 名望家秩序の変貌		
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
9. 普選体制への転換		
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
10. 恐慌の時代		
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
11. 経済更生運動と農村の組織化		
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
12. 国防婦人会の成立と展開		
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
13. 総力戦体制と国民再組織		
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
14. 戦中・戦後の都市住民		
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
15. 総括と展望		
事前学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分
事後学修	参考文献を適宜紹介するので、授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておく。	90分

試験等
授業中に指示する。
試験のフィードバックの方法
授業中に指示する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業中に適宜指示する。
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
hisano@m.ndsu.ac.jp
留意事項
一部、演習形式も取り入れる。

アジア社会史特論I		【単位数】	2単位
授業コード	M3330	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	鈴木 真		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会史		
本授業の概要			
前近代中国における儒学・科挙・宗族の問題を中心に、当時の漢人社会の在りかたについて、歴史学の観点より考察する。			
アクティブラーニングの実施内容		発見学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	前近代中国における漢人社会の思想的・文化的特徴を、儒学・科挙・宗族の概念を用いて説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	口頭発表 50%、課題レポート 50%	1	
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第 1 回：講義概要			
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前にシラバスを熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。		120分
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。		60分
第 2 回：儒教とは何か			
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。		120分
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。		60分
第 3 回：五経と四書			
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。		120分
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。		60分
第 4 回：中国史における官僚			
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。		120分
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。		60分
第 5 回：官僚登用制度の変遷①(漢)			
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。		120分
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。		60分

第 6 回：官僚登用制度の変遷②（魏晉）		
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。	120分
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。	60分
第 7 回：官僚登用制度の変遷③（南北朝）		
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。	120分
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。	60分
第 8 回：科挙の導入と理念		
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。	120分
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。	60分
第 9 回：科挙がもたらした政治的影響		
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。	120分
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。	60分
第 10 回：科挙がもたらした思想的影響		
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。	120分
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。	60分
第 11 回：科挙がもたらした社会的影響		
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。	120分
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。	60分
第 12 回：科挙の隆盛と宗族の形成		
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。	120分
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。	60分
第 13 回：宗族と中国社会		
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。	120分
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。	60分
第 14 回：科挙の終焉		
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。	120分
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。	60分
第 15 回：まとめ		
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。	120分
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。	60分

試験等 課題レポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
講義中に指示する。
オフィスアワー 月曜日の4時限（14:45～16:15）
連絡先 suzukimakoto@m.ndsu.ac.jp
留意事項 一部、演習形式もとりにれる。

アジア社会史特論II		【単位数】	2単位
授業コード	M3335	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	鈴木 真		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会史		
本授業の概要			
清代中国における儒学・科挙の問題を中心に、当時の旗人社会と漢人社会との相違について講義する。			
アクティブラーニングの実施内容		発見学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	旗人社会と漢人社会とを比較し、その思想的・文化的特徴の相違点を説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	口頭発表 50%、課題レポート 50%	1	
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第 1 回：講義概要			
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前にシラバスを熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。	120分	
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。	60分	
第 2 回：大清帝国の誕生			
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。	120分	
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。	60分	
第 3 回：旗人と民人			
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。	120分	
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。	60分	
第 4 回：辮髪と科挙			
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。	120分	
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。	60分	
第 5 回：江南社会と「南巡」			
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。	120分	
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。	60分	

第 6 回：大清における思想統制		
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。	120分
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。	60分
第 7 回：大清における「文字の獄」①（康熙年間）		
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。	120分
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。	60分
第 8 回：大清における「文字の獄」②（雍正年間）		
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。	120分
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。	60分
第 9 回：大清における「文字の獄」③（乾隆年間）		
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。	120分
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。	60分
第 10 回：旗人と翻訳科挙		
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。	120分
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。	60分
第 11 回：満洲旗人と文学		
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。	120分
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。	60分
第 12 回：華夷思想と『大義覚迷録』		
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。	120分
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。	60分
第 13 回：科挙と『儒林外史』		
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。	120分
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。	60分
第 14 回：官僚と『官場現形記』		
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。	120分
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。	60分
第 15 回：まとめ		
事前学修	毎回、漢文史料を中心とする資料プリントを配付する。講義の前に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。	120分
事後学修	資料プリントの内容を復習するとともに、関係する書籍を読み、理解を深めておくこと。	60分

試験等
課題レポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
講義中に指示する。
オフィスアワー 月曜日の4時限（14:45～16:15）
連絡先 suzukimakoto@m.ndsu.ac.jp
留意事項 一部、演習形式もとりにれる。

ヨーロッパ社会史特論I		単位数	2単位
授業コード	M3340	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	森木 広太郎		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会史		
本授業の概要			
古代ギリシア・ローマ社会について道德の歴史を考える。教義や制度の歴史ではなく、それを貫くようにして人と人との関係がどのように構想・実践されてきたのかを、とくに自己と性という観点から検討する。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	社会史のひとつの分野をどのように構想すればよいかについてヴィジョンを持てるようになる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	過去の社会と現代の社会との比較の視点を獲得する。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	報告 80%	1	
2	レポート 20%	1	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
道德の歴史のための導入			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分	
古代ギリシア社会についての概説			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分	
古代ギリシアの自己と性；自己			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分	
古代ギリシアの自己と性；身体			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分	
古代ギリシアの自己と性；女性			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分	

古代ギリシアの自己と性；少年愛		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分
古代ギリシアの自己と性；プラトン		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分
古代ギリシアの自己と性；まとめ		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分
古代ローマ社会についての概説		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分
古代ローマの自己と性；自己		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分
古代ローマの自己と性；身体		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分
古代ローマの自己と性；女性		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分
古代ローマの自己と性；少年愛		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分
古代ローマの自己と性；ストア派		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分
古代ローマの自己と性；まとめ		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分

試験等 レポート
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必要な資料等については授業中に配布する。
オフィスアワー 授業時間内に指示する。
連絡先 ktodoroki@m.ndsu.ac.jp
留意事項 ある程度演習形式を取り入れる。

ヨーロッパ社会史特論II		単位数	2単位
授業コード	M3345	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	森木 広太郎		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会史		
本授業の概要			
古代末期から中世にかけてのキリスト教的な道徳の歴史を考える。教義や制度の歴史ではなく、それを貫くようにして人と人との関係がどのように構想・実践されてきたのかを、とくに自己と性という観点から検討する。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	社会史のひとつの分野をどのように構想すればよいかについてヴィジョンを持てるようになる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	過去の社会と現代の社会との比較の視点を獲得する。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	報告80%	1/2	
2	レポート20%	1/2	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
道徳の歴史のための導入			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分	
初期キリスト教の自己と性；司牧			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分	
初期キリスト教の自己と性；生殖			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分	
初期キリスト教の自己と性；身体			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分	
初期キリスト教の自己と性；洗礼			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分	

初期キリスト教の自己と性；贖罪		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分
初期キリスト教の自己と性；修道生活		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分
初期キリスト教の自己と性；処女		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分
初期キリスト教の自己と性；結婚		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分
初期キリスト教の自己と性；アウグスティヌス		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分
中世の自己と性；贖罪の変遷		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分
中世の自己と性；結婚		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分
中世の自己と性；アベラールとエロイズ（事件）		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分
中世の自己と性；アベラールとエロイズ（史料）		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分
中世の自己と性；アベラールとエロイズ（魂の導き）		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分

試験等 レポート
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必要な資料等については授業中に配布する。
オフィスアワー 授業中に指示する。
連絡先 ktodoroki@m.ndsu.ac.jp
留意事項 ある程度演習形式を取り入れる。

日本民俗学特論I		【単位数】	2単位
授業コード	M3350	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	平松 典晃		
時間割備考			
授業形態（主）	1 講義		
授業形態（副）			
担当形態	単独		
研究分野（大学院）	社会史		
本授業の概要			
日本民俗学の基本的な知識と技術を身につけた上で、民俗学の視点に立ち自ら調査・研究を行うことができるようになることを目指す。			
アクティブラーニングの実施内容		調査学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	日本民俗学の立脚点を理解し、説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	民俗宗教に関する基本的な知識に立って日本の民俗文化および宗教文化を理解し、説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	民俗学および関連分野の論文が読解できる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	期末に課すレポートによって、上記の到達目標の達成度を評価する。	1/2/3	
2	授業中に課した口頭発表を評価に加味する。	1/2/3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目		実務あり	
実務経験の授業への活用方法			
高等学校における教員としての指導経験を生かし、効果的な授業展開に努める。学芸員としての実務経験をもとに民俗調査や研究方法の習得、民俗学に求められる役割や課題の解決にむけて実践的な取り組みを促す。			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. 民俗学とは			
事前学修	民俗学とはどのような学問か調べておくこと。	1～2時間程度	
事後学修	文献を用い、民俗学という学問がどのように理解されているか確認し、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度	
2. 柳田國男と日本民俗学			
事前学修	柳田國男の著作『遠野物語』を講読しておくこと。	1～2時間程度	
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度	
3. 社会伝承（村とムラ）			
事前学修	関係する書籍、論文を講読しておくこと。	1～2時間程度	
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度	
4. 社会伝承（家）			
事前学修	関係する書籍、論文を講読しておくこと。	1～2時間程度	
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度	
5. 経済伝承（生業）			
事前学修	関係する書籍、論文を講読しておくこと。	1～2時間程度	
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度	

6. 社会伝承（交易）		
事前学修	関係する書籍、論文を講読しておくこと。	1～2時間程度
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度
7. 儀礼伝承（人生儀礼）		
事前学修	関係する書籍、論文を講読しておくこと。	1～2時間程度
事後学修	関係する書籍、論文を講読しておくこと。	1～2時間程度
8. 儀礼伝承（葬送・墓制）		
事前学修	関係する書籍、論文を講読しておくこと。	1～2時間程度
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度
9. 儀礼伝承（年中行事）		
事前学修	関係する書籍、論文を講読しておくこと。	1～2時間程度
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度
10. 儀礼伝承（農耕儀礼）		
事前学修	関係する書籍、論文を講読しておくこと。	1～2時間程度
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度
11. 信仰伝承（カミ・ホトケの性格）		
事前学修	関係する書籍、論文を講読しておくこと。	1～2時間程度
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度
12. 信仰伝承（祭りの本質）		
事前学修	関係する書籍、論文を講読しておくこと。	1～2時間程度
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度
13. 信仰伝承（仏教民俗）		
事前学修	関係する書籍、論文を講読しておくこと。	1～2時間程度
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度
14. 信仰伝承（俗信）		
事前学修	関係する書籍、論文を講読しておくこと。	1～2時間程度
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度
15. まとめ		
事前学修	日本人の持つ他界観、宗教観について学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度

試験等 期末にレポートを課す。
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<参考文献>授業中に提示する。その他、必要な資料は配付する。
オフィスアワー 授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先 s3039@m.ndsu.ac.jp
留意事項

日本民俗学特論II		単位数	2単位
授業コード	M3355	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	平松 典晃		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会史		
本授業の概要			
祭りや先祖祭祀など、宗教民俗に関する事例を取り上げ、歴史民俗学の手法により検討する。自ら調査・研究を行うことができるようになることをめざす。			
アクティブラーニングの実施内容		調査学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	日本の社会における様々な宗教民俗の実態が説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	庶民の家意識と寺壇関係の形成が密接にかかわっていることを理解し、説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	期末に課すレポートによって、上記の到達目標の達成度を評価する。	1/2	
2	授業中に課した口頭発表を評価に加味する。	1/2	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目		実務あり	
実務経験の授業への活用方法			
高等学校における教員としての指導経験を生かし、効果的な授業展開に努める。学芸員としての実務経験をもとに民俗調査や研究方法の習得、民俗学に求められる役割や課題の解決にむけて実践的な取り組みを促す。			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. 歴史民俗学の研究方法			
事前学修	歴史民俗学の手法について調べておく。	1～2時間程度	
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度	
2. 検地と庶民の家意識			
事前学修	検地の歴史について調べておくこと。自治体史などで検地帳を確認しておくこと。	1～2時間程度	
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度	
3. 庶民の家意識と先祖祭祀			
事前学修	検地がムラや家にどのような影響をもたらしたか文献をよみ考えておく。	1～2時間程度	
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度	
4. 同族祭祀の展開			
事前学修	「同族祭祀」とはどのようなものが調べておくこと。	1～2時間程度	
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度	
5. 庶民の先祖祭祀と寺院(寺壇関係の形成と寺院の創建)			
事前学修	関係する書籍、論文等を探し、事前に学習しておくこと。	1～2時間程度	
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度	

6. 家の先祖祭祀と宗派		
事前学修	近世における日蓮宗不受不施派の信仰について調べておくこと。	1～2時間程度
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度
7. 神社の祭り（1）		
事前学修	祭りの調査報告など事例を探し、よく目を通しておくこと。	1～2時間程度
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度
8. 神社の祭り（2）		
事前学修	祭りの調査報告など事例を探し、よく目を通しておくこと。	1～2時間程度
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度
9. 寺の行事（1）		
事前学修	調査報告など事例を探し、よく目を通しておくこと。	1～2時間程度
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度
10. 寺の行事（2）		
事前学修	調査報告など事例を探し、よく目を通しておくこと。	1～2時間程度
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度
11. 寺院縁起にみる仏教民俗の展開（1）		
事前学修	該当する資料によく目を通しておくこと（授業時に案内する）。	1～2時間程度
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度
12. 寺院縁起にみる仏教民俗の展開（2）		
事前学修	該当する資料によく目を通しておくこと（授業時に案内する）。	1～2時間程度
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度
13. 寺院縁起にみる仏教民俗の展開（3）		
事前学修	該当する資料によく目を通しておくこと（授業時に案内する）。	1～2時間程度
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度
14. まとめ（1）ムラと家における先祖祭祀の変遷		
事前学修	家（屋敷）の中にある神棚・仏壇などの祭祀場所を調べておくこと。	1～2時間程度
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度
15. まとめ（2）神社と寺の祭りにみる民俗		
事前学修	宵宮と祝祭の関係を確認しておくこと。	1～2時間程度
事後学修	関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。	1～2時間程度

試験等 期末にレポートを課す。
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<参考文献>授業中に提示する。その他、必要な資料は配付する。
オフィスアワー 授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先 s3039@m.ndsu.ac.jp
留意事項

考古学特論I		【単位数】	2単位
授業コード	M3360	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	紺谷 亮一		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会史		
本授業の概要			
縄文、弥生、古墳時代を中心に取り上げ、各時代の特徴および遺跡を概観しながら、日本考古学上の問題にせまる。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	縄文から古墳時代の考古学事例を通して、日本の古代社会成立のプロセスとその要因について説明できる。		
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	口頭発表 50%、課題レポート 50%	1	
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第 1 回：講義概要			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分	
第 2 回：縄文時代の起源とその展開			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分	
第 3 回：縄文海進の影響について			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分	
第 4 回：三内丸山遺跡の衣食住			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分	
第 5 回：縄文時代関連の論文講読			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分	

第 6 回：弥生時代の起源とその展開		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
第 7 回：高地性集落と環濠集落の出現		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
第 8 回：纏向遺跡の集落構造		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
第 9 回：弥生時代関連の論文講読		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
第 10 回：古墳の起源とその展開		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
第 11 回：前方後円墳とは何か		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
第 12 回：造山古墳の考古学的位置付け		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
第 13 回：古代吉備と古代出雲の関係について		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
第 14 回：古墳時代関連の論文講読		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
第 15 回：まとめ		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分

試験等
試験のフィードバックの方法 講義中に指示する。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
講義中に指示する。
オフィスアワー 講義中に指示する。
連絡先 kontani@post.ndsu.ac.jp
留意事項 一部、演習形式も取り入れる。

考古学特論II		【単位数】	2単位
授業コード	M3365	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	紺谷 亮一		
時間割備考			
授業形態（主）	1 講義		
授業形態（副）			
担当形態	単独		
研究分野（大学院）	社会史		
本授業の概要			
西アジアの先史時代を中心に取り上げ、各時代の特徴および遺跡を概観しながら、西アジアの考古学上の問題にせまる。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	西アジアの先史時代の考古学事例を通して、都市国家成立のプロセスとその要因について説明できる。		
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	口頭発表 50%、課題レポート 50%		1
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第 1 回：講義概要			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。		60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。		60分
第 2 回：西アジアにおける農耕の起源			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。		60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。		60分
第 3 回：西アジアにおける牧畜の起源			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。		60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。		60分
第 4 回：ギョベックリテペ遺跡のインパクト			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。		60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。		60分
第 5 回：新石器時代関連の論文講読			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。		60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。		60分

第 6 回：西アジアにおける都市の発生		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
第 7 回：西アジアにおける交易の複雑化		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
第 8 回：ウルク遺跡、テル・ブラク遺跡の特徴		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
第 9 回：都市の起源に関する論文講読		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
第 10 回：都市国家成立の背景		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
第 11 回：農耕生産力・鉱物資源の考古学的評価		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
第 12 回：キュルテベ遺跡の発掘成果①銅石器時代		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
第 13 回：キュルテベ遺跡の発掘成果②青銅器時代		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
第 14 回：キュルテベ遺跡に関する論文講読		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
第 15 回：まとめ		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分

試験等
試験のフィードバックの方法 講義中に指示する。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
講義中に指示する。
オフィスアワー 講義中に指示する。
連絡先 kontani@post.ndsu.ac.jp
留意事項 一部、演習形式も取り入れる。

社会史演習I		単位数	2単位
授業コード	M3410	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	紺谷 亮一		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	1 講義 / 3 実験・実習・実技		
担当形態	クラス分け		
研究分野(大学院)	社会史		
本授業の概要			
日本の縄文時代、弥生時代の著名な遺跡を取り上げ、各遺跡の特徴を概観しながら、日本考古学上の問題にせまる。			
アクティブラーニングの実施内容		調査学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性)	
1	縄文時代、弥生時代の考古学事例を通して、日本の先史時代の特徴について説明できる。	知識・技能 / 思考・判断・表現力	
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	口頭発表 50%	1	
2	課題レポート 50%	1	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第 1 回：講義概要			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分	
第 2 回：縄文時代：三内丸山遺跡の発掘調査			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分	
第 3 回：三内丸山遺跡の集落構造			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分	
第 4 回：三内丸山遺跡出土の巨大木造建築群			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分	
第 5 回：論文講読			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分	

第 6 回：弥生時代：吉野ヶ里遺跡の発掘調査		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分
第 7 回：吉野ヶ里遺跡の環濠		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分
第 8 回：吉野ヶ里遺跡の墳丘墓		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分
第 9 回：論文講読		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分
第 10 回：弥生時代：纏向遺跡の発掘調査		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分
第 11 回：纏向遺跡の集落構造		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分
第 12 回：纏向遺跡の掘立柱建築群		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分
第 13 回：箸墓古墳の存在		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分
第14 回：論文講読		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分
第 15 回：まとめ		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分

試験等
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
講義中に指示する。
オフィスアワー 講義中に指示する。
連絡先 kontani@post.ndsu.ac.jp
留意事項 一部、演習形式も取り入れる。

社会史演習II		単位数	2単位
授業コード	M3415	科目ナンバリング	開講年度学期
担当者氏名	紺谷 亮一		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	1 講義		
担当形態	クラス分け		
研究分野(大学院)	社会史		
本授業の概要			
西アジアの先史時代を中心に取り上げ、各時代の特徴および遺跡を概観しながら、西アジアの考古学上の問題にせまる。			
アクティブラーニングの実施内容		体験学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	西アジアの先史時代の考古学事例を通して、メガサイトおよびメガシティの発生についてその背景を説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	口頭発表 50%	1	
2	課題レポート 50%	1	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第 1 回：講義概要			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分	
第 2 回：新石器時代：ギョベックリテペ遺跡の発掘調査			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分	
第 3 回：ギョベックリテペの集落構造			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分	
第 4 回：ギョベックリテペ出土の石製彫刻			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分	
第 5 回：論文講読			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分	

第 6 回：銅石器時代：アルスランテペ遺跡の発掘調査		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分
第 7 回：アルスランテペ遺跡の公共建築群		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分
第 8 回：アルスランテペ出土の「石棺王墓」		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分
第 9 回：論文講読		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分
第 10 回：青銅器時代：キュルテペ遺跡の発掘調査		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分
第 11 回：キュルテペ遺跡の公共建築群		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分
第 12 回：キュルテペ遺跡の石製偶像		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分
第 13 回：キュルテペ遺跡の先史時代		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分
第 14 回：論文講読		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分
第 15 回：まとめ		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	90分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	90分

試験等
試験のフィードバックの方法 講義中に指示する。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
講義中に指示する。
オフィスアワー 講義中に指示する。
連絡先 kontani@post.ndsu.ac.jp
留意事項 一部、演習形式も取り入れる。

社会史演習Ⅰ		【単位数】	2単位
授業コード	M3420	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	久野 洋		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	1 講義 / 3 実験・実習・実技		
担当形態	クラス分け		
研究分野(大学院)	社会史		
本授業の概要			
本授業では、受講生が研究テーマ・研究方針を定め、またそれを実現するために必要な分析手法について学ぶ。それぞれの分野に応じた歴史学の研究テーマを選び、関連する先行研究・史資料を収集し、それらを批判的・客観的に分析するなど、自身の研究を深化させるための訓練をおこない、研究発表・論文作成に向けた準備をおこなう。			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性)	
1	歴史的な研究テーマの設定を適切におこなうことができる。	知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
2	研究に必要な方法論を理解し、史資料の収集・分析を実践することができる。	知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
3	先行研究を批判的・客観的に読解することができる。	知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業時の議論への参加 (20%)	1 / 2 / 3	
2	発表 (30%)	1 / 2 / 3	
3	研究論文 (50%)	1 / 2 / 3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回：研究論文とは何か			
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分	
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分	
第2回：先行研究：文献の収集			
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分	
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分	
第3回：先行研究：批判的に読む			
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分	
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分	
第4回：先行研究：不足点と今後の課題			
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分	
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分	
第5回：研究テーマの設定			
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分	
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分	

第 6回：研究方針の確定		
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分
第 7回：調査・分析の方法		
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分
第 8回：史資料調査の実施に向けて：計画を立てる		
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分
第 9回：史資料調査の実施に向けて：予備調査をおこなう		
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分
第10回：史資料調査の実践		
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分
第11回：史資料調査のまとめ		
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分
第12回：先行研究と自身の研究との比較分析		
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分
第13回：自身の研究が解決すべき課題		
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分
第14回：研究発表と討論		
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分
第15回：研究論文の作成に向けて 定期試験 なし		
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分

試験等
各クラスの授業で指示する。
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
各クラスの授業で指示する。受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択する。その他の資料は授業中に配付する。
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
hisano@m.ndsu.ac.jp
留意事項
毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備えほしい。また日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努めること。

社会史演習II		単位数	2単位
授業コード	M3425	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	久野 洋		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	1 講義 / 3 実験・実習・実技		
担当形態	クラス分け		
研究分野(大学院)	社会史		
本授業の概要			
本授業では、受講者の研究テーマや研究方針、収集・利用した史資料の内容を他者に的確に説明する訓練をおこなうとともに、研究の全体構成を具体化し、論文執筆と研究発表に必要な能力を高める。			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性)	
1	実施した史資料収集や調査の結果をまとめ、適切な方法で分析できる。	知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
2	分析結果を客観的・批判的に検討することができる。	知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
3	上記1・2の成果を盛り込み、研究発表・論文執筆がおこなえる。	知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業時の議論への参加 (20%)	1 / 2 / 3	
2	発表 (30%)	1 / 2 / 3	
3	研究論文 (50%)	1 / 2 / 3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回：これまでの振り返りと研究内容の検討・修正			
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分	
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分	
第2回：研究テーマ・研究方針・史資料調査の再確認			
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分	
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分	
第3回：研究論文の執筆：問題の所在と全体構成			
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分	
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分	
第4回：収集した史資料の分析：史料の性格の確認			
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分	
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分	
第5回：収集した史資料の分析：史料批判			
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分	
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解読を行う。	120分	

第 6回：研究テーマを深化させる		
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解説を行う。	120分
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解説を行う。	120分
第 7回：研究論文の執筆：先行研究との差異化		
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解説を行う。	120分
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解説を行う。	120分
第 8回：史資料の分析結果：客観的に再検討する		
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解説を行う。	120分
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解説を行う。	120分
第 9回：史資料の分析結果：どのように論文に用いるか		
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解説を行う。	120分
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解説を行う。	120分
第10回：研究論文の執筆：論理的な議論とは		
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解説を行う。	120分
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解説を行う。	120分
第11回：序論の書き方		
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解説を行う。	120分
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解説を行う。	120分
第12回：結論の書き方		
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解説を行う。	120分
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解説を行う。	120分
第13回：研究論文の全体構成・論証過程の見直し		
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解説を行う。	120分
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解説を行う。	120分
第14回：要旨の書き方		
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解説を行う。	120分
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解説を行う。	120分
第15回：まとめ 定期試験 なし		
事前学修	報告の作成に向けて論文の精読と史料の収集・解説を行う。	120分
事後学修	授業内容をふまえて論文の精読と史料の収集・解説を行う。	120分

試験等
各クラスの授業で指示する。
試験のフィードバックの方法
各クラスの授業で指示する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
各クラスの授業で指示する。受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択する。その他の資料は授業中に配付する。
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
hisano@m.ndsu.ac.jp
留意事項
毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備えてほしい、また日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努めること。

社会史演習Ⅰ		【単位数】	2単位
授業コード	M3430	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	鈴木 真		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	1 講義 / 3 実験・実習・実技		
担当形態	クラス分け		
研究分野(大学院)	社会史		
本授業の概要			
本授業では、受講生が研究テーマ・研究方針を定め、またそれを実現するために必要な分析手法について学ぶ。それぞれの分野に応じた歴史学の研究テーマを選び、関連する先行研究・史資料を収集し、それらを批判的・客観的に分析するなど、自身の研究を深化させるための訓練をおこない、研究発表・論文作成に向けた準備をおこなう。			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性)	
1	歴史的な研究テーマの設定を適切におこなうことができる。	知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
2	研究に必要な方法論を理解し、史資料の収集・分析を実践することができる。	知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
3	先行研究を批判的・客観的に読解することができる。	知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業時の議論への参加 (20%)	1 / 2 / 3	
2	発表 (30%)	1 / 2 / 3	
3	研究論文 (50%)	1 / 2 / 3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回：研究論文とは何か			
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の議論に備える。	60分	
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分	
第2回：先行研究：文献の収集			
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の議論に備える。	60分	
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分	
第3回：先行研究：批判的に読む			
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の議論に備える。	60分	
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分	
第4回：先行研究：不足点と今後の課題			
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の議論に備える。	60分	
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分	
第5回：研究テーマの設定			
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の議論に備える。	60分	
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分	

第 6回：研究方針の確定		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	60分
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分
第 7回：調査・分析の方法		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	60分
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分
第 8回：史資料調査の実施に向けて：計画を立てる		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	60分
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分
第 9回：史資料調査の実施に向けて：予備調査をおこなう		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	60分
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分
第10回：史資料調査の実践		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	60分
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分
第11回：史資料調査のまとめ		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	60分
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分
第12回：先行研究と自身の研究との比較分析		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	60分
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分
第13回：自身の研究が解決すべき課題		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	60分
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分
第14回：研究発表と討論		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	60分
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分
第15回：研究論文の作成に向けて		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	60分
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分

社会史演習II		【単位数】	2単位
授業コード	M3435	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	鈴木 真		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	1 講義 / 3 実験・実習・実技		
担当形態	クラス分け		
研究分野(大学院)	社会史		
本授業の概要			
本授業では、受講者の研究テーマや研究方針、収集・利用した史資料の内容を他者に的確に説明する訓練をおこなうとともに、研究の全体構成を具体化し、論文執筆と研究発表に必要な能力を高める。			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性)	
1	実施した史資料収集や調査の結果をまとめ、適切な方法で分析できる。	知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
2	分析結果を客観的・批判的に検討することができる。	知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
3	上記1・2の成果を盛り込み、研究発表・論文執筆がおこなえる。	知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業時の議論への参加 (20%)	1 / 2 / 3	
2	発表 (30%)	1 / 2 / 3	
3	研究論文 (50%)	1 / 2 / 3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回：これまでの振り返りと研究内容の検討・修正			
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の議論に備える。	60分	
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分	
第2回：研究テーマ・研究方針・史資料調査の再確認			
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の議論に備える。	60分	
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分	
第3回：研究論文の執筆：問題の所在と全体構成			
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の議論に備える。	60分	
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分	
第4回：収集した史資料の分析：史料の性格の確認			
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の議論に備える。	60分	
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分	
第5回：収集した史資料の分析：史料批判			
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の議論に備える。	60分	
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分	

第 6回：研究テーマを深化させる		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	60分
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分
第 7回：研究論文の執筆：先行研究との差異化		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	60分
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分
第 8回：史資料の分析結果：客観的に再検討する		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	60分
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分
第 9回：史資料の分析結果：どのように論文に用いるか		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	60分
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分
第10回：研究論文の執筆：論理的な議論とは		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	60分
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分
第11回：序論の書き方		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	60分
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分
第12回：結論の書き方		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	60分
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分
第13回：研究論文の全体構成・論証過程の見直し		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	60分
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分
第14回：要旨の書き方		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	60分
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分
第15回：まとめ		
事前学修	毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。	60分
事後学修	日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解説・分析に努める。	120分

試験等 各クラスの授業で指示する。
試験のフィードバックの方法 各クラスの授業で指示する。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
各クラスの授業で指示する。受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択し、その他の資料は授業中に配付する。
オフィスアワー 月曜4限（14:45～16:15）
連絡先 suzukimakoto@m.ndsu.ac.jp
留意事項

社会史演習Ⅰ		【単位数】	2単位
授業コード	M3440	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	森木 広太郎		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	1 講義		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	ヨーロッパ社会史		
本授業の概要			
本授業では、受講生が研究テーマ・研究方針を定め、またそれを実現するために必要な分析手法について学ぶ。それぞれの分野に応じた歴史学の研究テーマを選び、関連する先行研究・史資料を収集し、それらを批判的・客観的に分析するなど、自身の研究を深化させるための訓練をおこない、研究発表・論文作成に向けた準備をおこなう。			
アクティブラーニングの実施内容		調査学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	歴史的な研究テーマの設定を適切におこなうことができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	研究に必要な方法論を理解し、史資料の収集・分析を実践することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	先行研究を批判的・客観的に読解することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	レポート (50%)	1/2/3	
2	発表 (50%)	1/2/3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
研究論文とは何か			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分	
先行研究：文献の収集			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分	
先行研究：批判的に読む			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分	
先行研究：不足点と今後の課題			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分	
研究テーマの設定			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分	

研究方針の確定		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
調査・分析の方法		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
史資料調査の実施に向けて：計画を立てる		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
史資料調査の実施に向けて：予備調査をおこなう		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
史資料調査の実践		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
史資料調査のまとめ		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
先行研究と自身の研究との比較分析		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
自身の研究が解決すべき課題		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
研究発表と討論		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
研究論文の作成に向けて		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分

試験等 レポート
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択する。その他の資料は授業中に配付する。
オフィスアワー 授業中に指示する。
連絡先 ktodoroki@m.ndsu.ac.jp
留意事項

社会史演習II		【単位数】	2単位
授業コード	M3445	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	森木 広太郎		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	1 講義		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	ヨーロッパ社会史。		
本授業の概要			
本授業では、受講者の研究テーマや研究方針、収集・利用した史資料の内容を他者に的確に説明する訓練をおこなうとともに、研究の全体構成を具体化し、論文執筆と研究発表に必要な能力を高める。			
アクティブラーニングの実施内容		調査学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	実施した史資料収集や調査の結果をまとめ、適切な方法で分析できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	分析結果を客観的・批判的に検討することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	上記の成果を盛り込み、研究発表・論文執筆がおこなえる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	レポート(50%)	1/2/3	
2	発表(50%)	1/2/3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
これまでの振り返りと研究内容の検討・修正			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	60分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	120分	
研究テーマ・研究方針・史資料調査の再確認			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分	
研究論文の執筆：問題の所在と全体構成			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分	
収集した史資料の分析：史料の性格の確認			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分	
収集した史資料の分析：史料批判			
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分	
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分	

研究テーマを深化させる		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
研究論文の執筆：先行研究との差異化		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
史資料の分析結果：客観的に再検討する		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
史資料の分析結果：どのように論文に用いるか		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
研究論文の執筆：論理的な議論とは		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
序論の書き方		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
結論の書き方		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
研究論文の全体構成・論証過程の見直し		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
要旨の書き方		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分
まとめ		
事前学修	担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。	120分
事後学修	担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。	60分

試験等 レポート
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択する。その他の資料は授業中に配付する。
オフィスアワー 授業中に指示する。
連絡先 ktodroroki@m.ndsu.ac.jp
留意事項

社会言語学特論I		【単位数】	2単位
授業コード	M3510	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	尾崎 喜光		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	専門関連科目		
本授業の概要			
<p>フォーマルな文体を旨とすることから現代においても古典文法や古風な言いまわしが現われやすい校歌の歌詞に注目し、共同作業により校歌を多数収集・蓄積してデータベース化し、履修者が関心を持つ観点からそれぞれ分析することで、校歌の歌詞の現状を多角的に把握する。また、校歌が作られた時代別に分析することで、使用表現の変化の有無や変化の方向性を明らかにする。</p> <p>「社会言語学特論I」では、教材として参照する先行研究を精読し、得られた知見を把握するとともに、データの収集・蓄積に関する検討を経て収集と分析に着手する。</p>			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	先行研究を理解し説明できる。	知識・技能	
2	研究が計画できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	研究が実行できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	分析に着手できる。	主体性	
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業活動内容：50%	1/2/3	
2	研究レポート：50%	4	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回：ガイダンス			
事前学修	シラバスの精読		おおむね1時間
事後学修	研究の検討		おおむね3時間
第2回：文献の精読と解説(1)-第1章、第2章-			
事前学修	文献の精読		おおむね2時間
事後学修	文献の再検討		おおむね2時間
第3回：文献の精読と解説(2)-第3章-			
事前学修	文献の精読		おおむね3時間
事後学修	文献の再検討		おおむね1時間
第4回：文献の精読と解説(3)-第4章第1節-			
事前学修	文献の精読		おおむね3時間
事後学修	文献の再検討		おおむね1時間
第5回：文献の精読と解説(4)-第4章第2節、第5章-			
事前学修	文献の精読		おおむね3時間
事後学修	文献の再検討		おおむね1時間

第6回：研究計画の検討（1）-調査対象等の検討-		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第7回：研究計画の検討（2）-修正案の作成-		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第8回：研究計画の検討（3）-確定をめざす-		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第9回：予備的調査の結果報告と検討		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第10回：データベースの枠組みに関する提案と検討（1）		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第11回：データベースの枠組みに関する提案と検討（2）-確定をめざす-		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第12回：修正計画による予備的調査結果報告と検討		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第13回：本調査着手の結果報告と検討（1）		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第14回：本調査の結果報告と検討（1）		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第15回：本調査の結果報告と検討（2）		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間

試験等
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
尾崎喜光・杉尾瞭子（2015）「校歌の歌詞に関する言語学的研究-倉敷市の公立学校の場合-」（『清心語文』第17号）
オフィスアワー 授業終了後
連絡先 yozaki@m.ndsu.ac.jp
留意事項 PCでの分析、データベースの作成を必須とする。ワード、エクセルを使える環境を整えておくこと。

社会言語学特論II		【単位数】	2単位
授業コード	M3515	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	尾崎 喜光		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	専門関連科目		
本授業の概要			
<p>フォーマルな文体を旨とすることから現代においても古典文法や古風な言いまわしが現われやすい校歌の歌詞に注目し、共同作業により校歌を多数収集・蓄積してデータベース化し、履修者が関心を持つ観点からそれぞれ分析することで、校歌の歌詞の現状を多角的に把握する。また、校歌が作られた時代別に分析することで、使用表現の変化の有無や変化の方向性を明らかにする。</p> <p>「社会言語学特論II」では、データの収集・蓄積に関する再検討を経てさらにデータを収集し、最終的な分析を行なう。</p>			
アクティブラーニングの実施内容		調査学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	研究が計画できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	研究が実行できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	分析ができる。	思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業活動内容：50%	1/2	
2	研究レポート：50%	3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回：ガイダンス			
事前学修	シラバスの精読		おおむね1時間
事後学修	研究の検討		おおむね3時間
第2回：研究の微修正の有無に関する検討			
事前学修	発表の準備		おおむね2時間
事後学修	研究の再検討		おおむね2時間
第3回：本調査の結果報告と検討(1) -校種別分析-			
事前学修	発表の準備		おおむね3時間
事後学修	研究の再検討		おおむね1時間
第4回：本調査の結果報告と検討(2) -校歌制定年別分析-			
事前学修	発表の準備		おおむね3時間
事後学修	研究の再検討		おおむね1時間
第5回：本調査の結果報告と検討(3) -学校設立年別分析-			
事前学修	発表の準備		おおむね3時間
事後学修	研究の再検討		おおむね1時間

第6回：本調査の結果報告と検討（4）-地域別分析-		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第7回：分析資料（図表）の作成に関する解説		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第8回：本調査の結果報告と検討（5）-校種別再分析-		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第9回：本調査の結果報告と検討（6）-校歌制定年別再分析-		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第10回：本調査の結果報告と検討（7）-学校設立年別再分析-		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第11回：本調査の結果報告と検討（8）-地域別再分析-		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第12回：総合分析の報告と検討		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第13回：総合分析の報告と再検討		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第14回：総合分析の報告と検討-レポート作成をめざして-		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第15回：総合分析の報告と再検討-レポート作成をめざして-		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間

試験等
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし。
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし。
オフィスアワー 授業終了後
連絡先 yozaki@m.ndsu.ac.jp
留意事項 PCでの分析、データベースの作成を必須とする。ワード、エクセルを使える環境を整えておくこと。

社会文学特論I		【単位数】		2単位
授業コード	M3520	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	綾目 広治			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)	1 講義			
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	専門関連科目			
本授業の概要				
大正期から戦前昭和期に至るまでの文芸批評史を展望する。代表的な評論、および文学論争の読解を通して、現代文学史において何が問題にされてきたのか、さらにそれらの問題と社会との関わりについて考察する。さらに大衆小説に焦点を絞って、作家や出版者さらに読者などからなる出版文化と、その歴史的意義についても考察する。従って、この講義は社会的な視野から見た現代文学史の講義であり、また、広い意味での現代社会思想史でもある。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	社会の問題と関わる現代批評、現代思想を読む力をつける。		知識・技能/思考・判断・表現力	
2	社会の問題と関わる現代批評、現代思想の問題点が指摘できるようになる。		知識・技能/思考・判断・表現力	
3	社会の問題と関わる現代批評、現代思想を批評できるようになる。		知識・技能/思考・判断・表現力	
4	社会の問題と関わる現代批評、現代思想を今現在の問題と関連させることができるようになる。		知識・技能/思考・判断・表現力	
5			知識・技能/思考・判断・表現力	
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	演習での発表。		1	
2			1/2	
3			1/2/3	
4			1/2/3	
5			1/2/3	
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧			事前・事後学修内容と時間	
第1回、導入				
事前学修				
事後学修				
第2回、現代文芸評論概観				
事前学修				
事後学修				
第3回、新感覚派の誕生				
事前学修				
事後学修				
第4回、目的意識論				
事前学修				
事後学修				
第5回、芥川龍之介と志賀直哉				
事前学修				
事後学修				

第6回、末期の眼		
事前学修		
事後学修		
第7回、冬を越す蕾		
事前学修		
事後学修		
第8回、中間のまとめ		
事前学修		
事後学修		
第9回、散文精神について		
事前学修		
事後学修		
第10回、歴史について		
事前学修		
事後学修		
第11回、日本の橋		
事前学修		
事後学修		
第12回、日本文化私観		
事前学修		
事後学修		
第13回、短歌写生の説		
事前学修		
事後学修		
第14回、戦前批評を概観して		
事前学修		
事後学修		
第15回、戦後批評へ		
事前学修		
事後学修		

試験等
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜指示する。
オフィスアワー
連絡先
留意事項 当該テキスト以外にも関連文献を幅広く読む。

社会文学特論II		単位数	2単位
授業コード	M3525	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	綾目 広治		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	1 講義 / 2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	専門関連科目		
本授業の概要			
第1期に続き、日本近代文学の中での代表的な評論、および文学論争の読解を通して、現代文学史において何が問題にされてきたのかを考察し、さらに広くは現代の社会思想史における観点からの考察もしていく。したがって、この講義は社会的な観点からの現代文学史であり、日本における現代社会思想史についての授業でもある。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性)	
1	社会の問題と関わる現代批評、現代思想についての展望を得る。	知識・技能 / 思考・判断・表現力	
2	社会の問題と関わる現代批評、現代思想の問題点が指摘できるようになる。		
3	社会の問題と関わる現代批評、現代思想を批評できるようになる。		
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	演習での発表。	1	
2		2	
3		1 / 2 / 3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回、導入			
事前学修			
事後学修			
第2回、第二の青春			
事前学修			
事後学修			
第3回、第二芸術			
事前学修			
事後学修			
第4回、逃亡奴隷と仮面紳士			
事前学修			
事後学修			
第5回、愛の無常について			
事前学修			
事後学修			

第6回、近代主義と民族の問題		
事前学修		
事後学修		
第7回、私小説の二律背反		
事前学修		
事後学修		
第8回、中間のまとめ		
事前学修		
事後学修		
第9回、抒情詩の運命		
事前学修		
事後学修		
第10回、すさびからさびへ		
事前学修		
事後学修		
第11回、神話の克服		
事前学修		
事後学修		
第12回、日本文化の雑種性		
事前学修		
事後学修		
第13回、転向論		
事前学修		
事後学修		
第14回、想像力について		
事前学修		
事後学修		
第15回、まとめ		
事前学修		
事後学修		

試験等
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
テキストはこちらで用意する。
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜指示する。
オフィスアワー 授業の後
連絡先
留意事項 当該テキスト以外にも関連文献を幅広く読むこと。

文化人類学特論I		【単位数】	2単位
授業コード	M3540	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	長坂 格		
時間割備考			
授業形態（主）			
授業形態（副）			
担当形態			
研究分野（大学院）			
本授業の概要			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1			
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1			
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
事前学修			
事後学修			
事前学修			
事後学修			
事前学修			
事後学修			
事前学修			
事後学修			
事前学修			
事後学修			

試験等
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
オフィスアワー
連絡先
留意事項

社会倫理学特論I		【単位数	2単位
授業コード	M3550	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	崎川 修		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	人間社会論		
本授業の概要			
「いのち」のケアをめぐる社会倫理的な問題を、いわゆる「生命倫理」を起点としつつ、その哲学的基盤や思想史的背景をひも解きながら考察する。それらの問題の構造的契機である「生の統治」と、その非人間性に注目しつつ、より統合的な「環境倫理」の視点から「人間的生」の可能性を受け取り直す可能性を、カトリックの社会教説のうちに探っていく。			
アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	生命倫理の諸問題についての知識を、その構造的契機や社会背景と結び付けて理解し説明することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	統合的な人間理解に基づいて、生命倫理にかかわる諸課題への応答可能性について主体的に考察することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業時の発表および授業態度 (50%)	1/2	
2	期末レポート (50%)	1/2	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第 1 回: 「いのち」のケアをめぐる倫理的問い			
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間	
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間	
第 2 回: 生命倫理の問題圏			
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間	
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間	
第 3 回: 統治される生と死			
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間	
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間	
第 4 回: 出生前診断と人工妊娠中絶			
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間	
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間	
第 5 回: 人工生殖技術の諸問題			
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間	
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間	

第 6 回：クローン技術の諸問題		
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間
第 7 回：参加者の発表と討論		
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間
第 8 回：反出生主義とは何か		
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間
第 9 回：生の否定の思想史		
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間
第 10 回：生殖技術と反出生主義		
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間
第 11 回：グリーフケアと「いのち」の倫理		
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間
第 12 回：終末期ケアの諸問題		
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間
第 13 回：生と死の尊厳をめぐって		
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間
第 14 回：参加者の発表と討論		
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間
第 15 回：総括		
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間

試験等 期末レポートを提出してもらおう。
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
受講者と相談の上決定する。
オフィスアワー オフィスアワーについては授業内で伝える。また随時メールでの質問、相談を受け付ける。
連絡先 sakikawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項

社会倫理学特論II		単位数	2単位
授業コード	M3555	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	崎川 修		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	人間社会論		
本授業の概要			
「いのち」のケアをめぐる社会倫理的な問題を、それらの問題の構造的契機である「生の統治」と、その非人間性に注目しつつ、カトリックの社会教説のうちに、より統合的な「環境倫理」の視点から「人間的生」の可能性を受け取り直す可能性を探っていく。			
アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	生命倫理の諸問題についての知識を、その構造的契機や社会背景と結び付けて理解し説明することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	統合的な人間理解に基づいて、生命倫理にかかわる諸課題への応答可能性について主体的に考察することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業時の発表および授業態度 (50%)	1/2	
2	期末レポート (50%)	1/2	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第 1 回: 「いのち」のケアの射程			
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間	
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間	
第 2 回: カトリック社会教説における「いのち」			
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間	
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間	
第 3 回: 回勅「フマーネ・ヴィテ」(教皇パウロ 6 世)			
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間	
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間	
第 4 回: 回勅「いのちの福音」(教皇ヨハネ・パウロ 2 世)			
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間	
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間	
第 5 回: 回勅「ラウダート・シ」(教皇フランシスコ)			
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間	
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間	

第 6 回：「ラウダート・シ」を読む（第 1 章）		
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間
第 7 回：「ラウダート・シ」を読む（第 2 章）		
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間
第 8 回：「ラウダート・シ」を読む（第 3 章）		
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間
第 9 回：参加者の討論と発表（「ラウダート・シ」前半部）		
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間
第 10 回：「ラウダート・シ」を読む（第 4 章）		
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間
第 11 回：「ラウダート・シ」を読む（第 5 章）		
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間
第 12 回：「ラウダート・シ」を読む（第 6 章）		
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間
第 13 回：参加者の討論と発表（「ラウダート・シ」後半部）		
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間
第 14 回：環境思想と生命倫理～「くらし」からみる「いのち」		
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間
第 15 回：総括		
事前学修	事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。	2時間
事後学修	講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。	2時間

試験等
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
〈必携書〉 『回勅 ラウダート・シ』 教皇フランシスコ、カトリック中央協議会、2016 その他、適宜授業内で紹介する。
オフィスアワー オフィスアワーについては授業内で伝える。また随時メールでの質問、相談を受け付ける。
連絡先 sakikawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項

社会・地理歴史科教育特論I		単位数	2単位
授業コード	M3570	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	森 泰三		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	専門関連科目		
本授業の概要			
アクティブラーニングをはじめとする学校教育で求められている指導法の特徴を講義するとともに、社会科・地理歴史科教育に必要なフィールドワークの指導法を、実践を通じて学ぶ。また、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育のあり方について、演習を交え地理学的視野から考察する。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	社会科・地理歴史科教育における最新の指導法の研究と地理指導のための資質・能力の向上をテーマとして授業を進める。それにより、社会科および地理歴史科教育に必要な指導技術であるフィールドワークや多様な地図資料を活用した教育方法を考察し、中学校や高等学校において積極的にアクティブラーニングを導入した授業が展開できる能力を習得する。		
2	地理学の素養を高め、社会科・地理歴史科教育で求められている高度な専門的資質と能力を身につける。		
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業時の発表(40%)	1/2	
2	レポートの内容(40%)	1/2	
3	指導技術の習得状況(20%)	1/2	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回 社会科・地理歴史科指導法の現状と課題			
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2時間	
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の課題、方法などのふりかえりをする。	2時間	
第2回 アクティブラーニングの指導法と特徴			
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2時間	
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の課題、方法などのふりかえりをする。	2時間	
第3回 地域調査方法論-巡検学習・地域調査の特徴と課題-			
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2時間	
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の課題、方法などのふりかえりをする。	2時間	
第4回 巡検学習の実際(1) 地形・農業			
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2時間	
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の課題、方法などのふりかえりをする。	2時間	
第5回 巡検学習の実際(2) 都市・観光			
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2時間	
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の課題、方法などのふりかえりをする。	2時間	

第 6 回 巡検学習の実際（3）交通・消費活動		
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2 時間
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の課題、方法などのふりかえりをする。	2 時間
第 7 回 巡検学習の実際（4）先史時代・古代・中世の遺構		
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2 時間
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の課題、方法などのふりかえりをする。	2 時間
第 8 回 巡検学習の実際（5）近世の遺構		
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2 時間
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の課題、方法などのふりかえりをする。	2 時間
第 9 回 巡検学習の実際（6）近代-産業遺産を中心に		
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2 時間
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の課題、方法などのふりかえりをする。	2 時間
第 10 回 巡検学習の学習指導案作成		
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2 時間
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の課題、方法などのふりかえりをする。	2 時間
第 11 回 地域調査の実際（1）商店街の調査		
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2 時間
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の課題、方法などのふりかえりをする。	2 時間
第 12 回 商店街調査結果の分析・発表		
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2 時間
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の課題、方法などのふりかえりをする。	2 時間
第 13 回 地域調査の実際（2）農村地域の調査		
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2 時間
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の課題、方法などのふりかえりをする。	2 時間
第 14 回 農村地域調査結果の分析・発表		
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2 時間
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の課題、方法などのふりかえりをする。	2 時間
第 15 回 地域調査の学習指導案作成		
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2 時間
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の課題、方法などのふりかえりをする。	2 時間

試験等 教材作成などのレポート
試験のフィードバックの方法 授業中に授業課題やレポートについてコメントする。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説社会編（文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説地理歴史編（文部科学省）、そのほか授業時に必要資料を配布する。
オフィスアワー 木曜日 3 時限
連絡先 tmori@m.ndsu.ac.jp
留意事項 中学校教諭および高等学校教諭専修免許状取得希望者が望ましい。

社会・地理歴史科教育特論II		単位数	2単位
授業コード	M3575	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	森 泰三		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	専門関連科目		
本授業の概要			
ICT(特に地理情報システム)の活用をはじめとする学校教育で求められている指導法の特徴を講義するとともに、社会科・地理歴史科教育に必要な地理情報システムを活用した指導法を、実践を通じて学ぶ。また、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育と今日的課題について、演習を交え地理学的視野から考察する。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	社会科・地理歴史科教育における最新の指導法の研究と地理指導のための資質・能力の向上をテーマとして授業を進める。それにより、社会科および地理歴史科教育に必要な指導技術である地理情報システムや多様な地図資料を活用した教育方法を考察し、それらを活用した中学校や高等学校における授業が展開できる能力を習得する。		
2	地理学の素養を高め、社会科・地理歴史科教育で求められている高度な専門的資質と能力を身につける。		
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業時の発表(40%)	1/2	
2	レポートの内容(40%)	1/2	
3	指導技術の習得状況(20%)	1/2	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回 ICTを活用した社会科・地理歴史科教育			
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2時間	
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の発展的な課題、方法などのふりかえりをする。	2時間	
第2回 地理情報システムの概念と実践方法			
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2時間	
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の発展的な課題、方法などのふりかえりをする。	2時間	
第3回 WebGISによる地図作成と分析、指導方法			
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2時間	
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の発展的な課題、方法などのふりかえりをする。	2時間	
第4回 地理院地図を活用した地形と防災			
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2時間	
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の発展的な課題、方法などのふりかえりをする。	2時間	
第5回 MANDARAを活用した統計地図作成と考察			
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2時間	
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の発展的な課題、方法などのふりかえりをする。	2時間	

第 6 回 アドレスマッチングと立地分析		
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2 時間
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の発展的な課題、方法などのふりかえりをする。	2 時間
第 7 回 歴史地理学と社会科教育（1）城下町の立地、伊能図		
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2 時間
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の発展的な課題、方法などのふりかえりをする。	2 時間
第 8 回 歴史地理学と社会科指導（2）新旧地形図と地域変容、地名と歴史		
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2 時間
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の発展的な課題、方法などのふりかえりをする。	2 時間
第 9 回 社会科教育と地理学（1）学校教育と地域		
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2 時間
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の発展的な課題、方法などのふりかえりをする。	2 時間
第 10 回 社会科教育と地理学（2）地域形成と学校の役割		
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2 時間
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の発展的な課題、方法などのふりかえりをする。	2 時間
第 11 回 社会科教育と地理学（3）人口分布と人口増減、少子高齢化		
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2 時間
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の発展的な課題、方法などのふりかえりをする。	2 時間
第 12 回 社会科教育と地理学（4）大都市圏の構造変容		
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2 時間
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の発展的な課題、方法などのふりかえりをする。	2 時間
第 13 回 社会科教育と地理学（5）地方活性化とまちづくり		
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2 時間
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の発展的な課題、方法などのふりかえりをする。	2 時間
第 14 回 社会科教育と地理学（6）観光の開発と保全		
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2 時間
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の発展的な課題、方法などのふりかえりをする。	2 時間
第 15 回 社会科教育と地域の諸課題		
事前学修	授業の内容について、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などを意識して予習する。	2 時間
事後学修	授業内容と関連させて社会科・地理歴史科教育の発展的な課題、方法などのふりかえりをする。	2 時間

試験等 教材作成などのレポート
試験のフィードバックの方法 授業中に授業課題やレポートについてコメントする。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説社会編（文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説地理歴史編（文部科学省）、そのほか授業時に必要資料を配布する。
オフィスアワー 火曜日 4 時限
連絡先 tmori@m.ndsu.ac.jp
留意事項 コンピュータや地図などを使用した授業実践に向けた演習を実施する。 中学校教諭および高等学校教諭専修免許状取得希望者が望ましい。

社会福祉学特論I		【単位数】	2単位
授業コード	M3580	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	杉山 博昭		
時間割備考			
授業形態（主）	1 講義		
授業形態（副）			
担当形態	単独		
研究分野（大学院）	人間社会論		
本授業の概要			
本授業では、日本キリスト教社会事業の歴史的展開を見ることで、日本の社会福祉の歴史的特質を把握する。キリシタン時代から、戦前の動向まで、カトリック・プロテスタントの社会事業実践、社会事業思想、教会の果たした役割などを考察していく。			
アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	近代における、カトリック・プロテスタントの果たしてきた意義を説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	近代社会の発展のなかでの社会事業の意義を理解し現代的意義を説明できる。	思考・判断・表現力/主体性	
3	社会事業の歴史を踏まえて、現代の社会福祉を分析できる。	知識・技能/主体性	
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	期末レポートで評価する 50%	1/2	
2	討論での発言や授業への取り組みで評価する 50%	3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1 キリスト教社会事業史研究の意義			
事前学修	キリスト教社会事業とは何か、概要について整理して理解しておく。	2時間以上	
事後学修	現在の社会福祉と歴史研究との関連について考察し、整理する。	2時間以上	
2 キリスト教と社会福祉の歴史的構造			
事前学修	社会福祉とは何か、関連文献によって把握するとともに、キリスト教との関連について考察する。	2時間以上	
事後学修	社会福祉とキリスト教との関連する事象について調べまとめる。	2時間以上	
3 キリシタンと慈善事業			
事前学修	キリシタン時代の慈善事業の概要について把握しておく。	2時間以上	
事後学修	キリシタン時代の慈善事業のうち、主要な活動について詳しく調べまとめる。	2時間以上	
4 近代初期のカトリック慈善 修道会による諸活動について			
事前学修	明治期のカトリックによる慈善事業の概要を把握する。	2時間以上	
事後学修	明治期のカトリックによる慈善事業のうち主要な事業について詳細をまとめる。	2時間以上	
5 プロテスタント慈善事業の展開 近代思想と慈善			
事前学修	明治期におけるプロテスタントによる慈善事業の概要を把握する。	2時間以上	
事後学修	明治期のプロテスタントによる慈善事業のうち主要な事業について、詳しく調べまとめる。	2時間以上	

6 初期キリスト教慈善事業の思想		
事前学修	明治期のキリスト教慈善事業の思想の概要を把握する。	2時間以上
事後学修	明治期のキリスト教慈善事業の主要な文献を読み、その内容に対する自分の見解をまとめる。	2時間以上
7 キリスト教施設の展開		
事前学修	キリスト教社会事業の施設について概要を把握する。	2時間以上
事後学修	キリスト教社会事業の施設のうち、主要なものについてその実践内容を調べ、まとめる。	2時間以上
8 日清戦争後のキリスト教慈善事業		
事前学修	1890年代以降のキリスト教慈善事業の概要を把握する。	2時間以上
事後学修	1890年代以降のキリスト教慈善事業のうち主要な活動について詳しく調べ、まとめる。	2時間以上
9 日露戦争後の感化救済事業とキリスト教 内務省の宗教統制の影響		
事前学修	1900年代以降のキリスト教による救済事業の概要を把握する。	2時間以上
事後学修	日露戦争後の感化救済事業とキリスト教の関係における内務省の宗教統制の影響について、自分の見解をまとめる。	2時間以上
10 植民地におけるキリスト教社会事業 台湾、朝鮮、満州でのキリスト教社会事業		
事前学修	植民地におけるキリスト教社会事業の概要をまとめる。	2時間以上
事後学修	植民地におけるキリスト教社会事業のうち主要な事業について詳しく調べ、まとめる。	2時間以上
11 大正デモクラシーとキリスト教社会事業		
事前学修	植民地におけるキリスト教社会事業の概要を把握する。	2時間以上
事後学修	植民地におけるキリスト教社会事業のうち、主要な事業について詳しく調べ、まとめる。	2時間以上
12 世界恐慌期のキリスト教社会事業の動向 救護法の影響・社会事業の経営問題		
事前学修	世界恐慌期のキリスト教社会事業について概要を把握しておく。	2時間以上
事後学修	世界恐慌期のキリスト教社会事業における救護法の影響や経営問題について調べ、自分の見解をまとめる。	2時間以上
13 キリスト教の社会事業教育 ソーシャルワークの導入と専門教育		
事前学修	戦前におけるキリスト教による社会事業教育の概要を把握する。	2時間以上
事後学修	キリスト教の社会事業教育におけるソーシャルワークの導入について調べ、自分の見解をまとめる。	2時間以上
14 戦時下のキリスト教社会事業 戦時下の苦難と、その一方での戦争協力の問題		
事前学修	戦時下のキリスト教社会事業について概要を把握する。	2時間以上
事後学修	戦時下のキリスト教社会事業の苦難と戦争協力の問題について調べ、自分の見解をまとめる。	2時間以上
15 戦時下のキリスト教社会事業の思想・理論 戦時厚生事業論とキリスト教		
事前学修	戦時下のキリスト教社会事業の思想・理論の概要を把握する。	2時間以上
事後学修	戦時下のキリスト教社会事業の思想・理論について当時の文献を読み、自分の見解をまとめる。	2時間以上

試験等
レポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
社会福祉学特論Ⅱで説明する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
〈必携書〉 日本キリスト教社会福祉学会編『日本キリスト教社会福祉の歴史』2014, ミネルヴァ書房
オフィスアワー
火曜 2限
連絡先
sugiyama@post.ndsu.ac.jp
留意事項
事前に、次週の講義箇所を伝えるので、テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。講義は討論を中心に行う。

社会福祉学特論II		【単位数】	2単位
授業コード	M3585	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	杉山 博昭		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	人間社会論		
本授業の概要			
本授業では、日本キリスト教社会福祉の第二次大戦後の歴史的展開を見ることで、日本の社会福祉の歴史的特質を把握する。カトリック・プロテスタントの社会福祉実践、社会福祉思想、教会と社会福祉の関係を考察していく。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	福祉国家政策の中でのキリスト教社会福祉の意義を説明することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	各教派の特徴を説明し、それぞれの社会福祉への貢献を議論することができる	知識・技能/主体性	
3	今後の社会福祉政策において歴史を踏まえた提言をすることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	期末レポートで評価する 50%	1	
2	授業態度・討論への参加状況・発言内容で評価する 50%	2/3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1 第二次大戦後のキリスト教社会事業			
事前学修	占領期のキリスト教社会事業の概要を把握する。	2時間	
事後学修	占領期における、憲法制定や一連の社会福祉法制とキリスト教社会事業の関係について考察する。	2時間以上	
2 人権問題とキリスト教 被差別部落・ハンセン病、障害者などの人権課題への取り組み			
事前学修	戦後に顕在化した人権課題についてキリスト教がどう対応したか概要を把握する。	2時間	
事後学修	人権課題の一つを取り上げ、キリスト教との関係について概要やプロセスを把握し、自分の評価をまとめる。	2時間以上	
3 高度成長期のキリスト教社会福祉			
事前学修	高度成長期におけるキリスト教社会福祉の動向を把握する。	2時間	
事後学修	高度成長期におけるキリスト教社会福祉の人物、施設を取り上げ、歴史的意義を考察する。	2時間以上	
4 カトリック社会福祉の動向			
事前学修	戦後のカトリック社会福祉の概要を把握する。	2時間	
事後学修	カトリック社会福祉の人物、施設を取り上げ、歴史的意義を考察する。	2時間以上	
5 社会活動・医療活動の動き			
事前学修	戦後のキリスト教における社会活動、医療活動にどのようなものがあるか把握する。	2時間	
事後学修	戦後のキリスト教における社会活動、医療活動のうちいくつかを取り上げ、歴史的意義や限界を考察する。	2時間以上	

6 福祉改革期のキリスト教社会福祉 介護保険、NPO の広がりについてどう対処したのか		
事前学修	1990年代以降の介護保険等の動きの中でキリスト教社会福祉がどう対応したか概要を把握する。	2時間
事後学修	介護保険等、社会福祉改革での具体的な動きの一つを取り上げ、キリスト教社会福祉の対応を詳しく調べ、自分の見解をまとめる。	2時間以上
7 阪神・淡路大震災とキリスト教		
事前学修	阪神・淡路大震災時のキリスト教による支援活動の概要を把握する。	2時間
事後学修	阪神・淡路大震災時のキリスト教による支援活動の具体的な事例を取り上げ、詳細を把握するとともに評価をまとめる。	2時間以上
8 各教派の歩みと福祉実践（1） カトリックの教理と社会福祉の関係		
事前学修	カトリックにおける社会福祉の理解について、関連文献を用いて把握する。	2時間
事後学修	カトリックによる社会福祉実践の事例を取り上げ、意義や限界を考察する。	2時間以上
9 各教派の歩みと福祉実践（2） 長老派の神学と社会福祉 組合派がなぜ多くの実践を生んだのか		
事前学修	プロテスタントの教派のうち、長老派と組合教会について特徴を把握する。	2時間
事後学修	長老派または組合教会における社会福祉実践の事例を取り上げ、意義や限界を考察する。	2時間以上
10 各教派の歩みと福祉実践（3） 聖公会・メソジストの社会福祉の特徴		
事前学修	聖公会とメソジストの特徴について把握する。	2時間
事後学修	聖公会またはメソジストにおける社会福祉実践の事例を取り上げ、意義や限界を考察する。	2時間以上
11 各教派の歩みと福祉実践（4） バプテスト・その他は社会福祉にどう貢献したか		
事前学修	バプテストやその他の教派の特徴を把握する。	2時間
事後学修	バプテスト、または他の教派による社会福祉実践の事例を取り上げ、意義や限界を考察する。	2時間以上
12 キリスト教団体と社会福祉 諸団体の概要と業績		
事前学修	社会福祉に関連するキリスト教団体にどのようなものがあるか把握する。	2時間
事後学修	キリスト教による社会福祉に関連する団体のうち、いくつかを取り上げ活動内容について考察する。	2時間以上
13 キリスト教社会福祉の養成教育 国家資格化のなかでのキリスト教の役割		
事前学修	キリスト教系の大学、専門学校等での社会福祉専門職養成の概要を把握する。	2時間
事後学修	キリスト教による大学、専門学校での専門職養成のうち、事例を取り上げて意義や課題を考察する。	2時間以上
14 キリスト教社会福祉の課題と展望		
事前学修	キリスト教、あるいは社会福祉が現在抱えている課題について把握する。	2時間
事後学修	社会福祉の課題についてキリスト教がどう対応すべきか、自分の見解をまとめる。	2時間以上
15 まとめ-少子高齢化時代におけるキリスト教社会福祉の役割		
事前学修	少子高齢化のなかでの社会福祉の課題を把握する。	2時間
事後学修	これからのキリスト教社会福祉のあり方について自分の見解をまとめ、レポート化する。	2時間以上

試験等
レポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
他の授業を活用する。または、個別に研究室に訪してディスカッションすることを歓迎する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
〈必携書〉
日本キリスト教社会福祉学会編『日本キリスト教社会福祉の歴史』2012, ミネルヴァ書房
オフィスアワー
火曜 2限
連絡先
sugiyama@post.ndsu.ac.jp
留意事項
事前に、次週の講義箇所を伝えるので、テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。講義は討論を中心に行う。